2021
京都橘大学

「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）

（2021年4月～2022年3月）

京都橘大学
地域連携センター
Center for Regional Collaboration

目次：京都橘大学「地域連携型教育プログラム」実績集

はじめに		2
Ⅰ.「学まち連携大学」促進事業		
学まち採択内容のイメージ図および説明		4
学まちチャレンジ！プロジェクト	採択団体一覧と取組み概要	5
実践例	スマホをひらくその時間が、リハビリの勉強に！	6
	エシカルマルシェ	7
	クリスマスリースで居場所を作ろうプロジェクト	8
	「アートロードなぎつじ」出展ー橘生が挑戦する山科歴史再発掘ー	9
	音でつながる高齢者の居場所	10
	山科冬季えんげき計画 2021	11
	いつか山科いこう～山科駅前から山科の魅力情報を発信するプロジェクト～	12
卒業生インタビュー	卒業生の学びの見える化	13
京都薬科大学との連携事業	共同学生団体 ME-ME の活動	14
	合同多職種連携教育（IPE）を開催	15
	共同公開講座「京のやくたちばなし」を開催	16
Ⅱ. 地域連携活動		
実践例	オリジナル御朱印帳研究開発プロジェクト	19
	オンラインものづくり教室	20
	医療福祉研究会 NICO による介護予防講座の開催	21
	駅ナカアートプロジェクト	22
	「七夕陶灯路 2021」の実施	23
一覧表	その他の地域連携活動	24
Ⅲ. 協定等	自治体等との連携協力に関する協定の締結	38

京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（「学まち連携大学」促進事業実績集）

（2021年4月～2022年3月）

京都橘大学
地域連携センター
Center for Regional Collaboration

はじめに

岡 田 知 弘
地域連携センター長

コロナ禍２年目のなかで

本書は、京都橘大学における 2021 年度の地域連携実績をまとめた報告書です。本年度も、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の皆さんとの連携は困難をともないました。けれども、本学では教職員や学生のワクチン接種も順調にすすみ、また感染拡大を防止しながら様々な工夫をすることで、教育研究や地域連携の活動をある程度すすめることができました。

第二期「学まち連携大学」促進事業の始動

本学は、昨年度半ばに、京都市が実施する第二期「学まち連携大学」促進事業に採択され、今年度は本格的な事業の立ち上げをすすめてきました。

本学は、すでに 2016 ～ 2019 年度において、京都市の「学まち連携大学」促進事業に採択され、学生と教職員が一体となって地域のみなさんとの協同の取組みを展開してきましたが、その実績が認められ、2020 年度からは「山科・醍醐地域で『変化を楽しむ』地域連携型教育プログラム」というテーマで、同じく京都市山科区に立地している京都薬科大学との共同事業を行うという実績を有しています。

第二期事業では、それらの成果を踏まえた多様なプロジェクトが、感染対策に注意しながら、一斉に動き出しました。例えば、地域連携の可視化をテーマとした「見える！！地域連携」プロジェクトでは、学生公募型地域連携活動助成事業として「学まちチャレンジ！プロジェクト」事業を開始し、多くの学生たちが自主的にグループを組んで多様な活動を展開しました。また、PROG テストの継続実施に加え、卒業生インタビューも開始しました。

さらに、京都薬科大学との連携による「区民に身近な大学へ」プロジェクトでは、共同公開講座「京のやくたちばなし」（全３回）を開催し、両大学の教職員の協力によって、多くの参加者の好評を得ました。併せて、共同学生団体「ME-ME(ミーム)」を設立し、薬膳喫茶の運営、介護予防事業などを実施し、その成果を SNS で発信する取り組みも行いました。

地域連携センターを中心にした今後の事業展開へのご協力を

この第二期「学まち連携大学」促進事業の推進主体になっているのが、本学地域連携センターです。本学は 2005 年には男女共学化とともに教学理念を「自立･共生･臨床の知」と再設定して、「臨床＝現場＝地域」から学び、地域と共生することを謳いました。そしてこの方針のもと、地域との連携機能をより一層発展させるために 2014 年４月に地域連携センターを開設いたしました。

当センターとしては、今後とも、第二期「学まち連携大学」促進事業の推進にいっそう力を注ぐとともに、同事業以外の分野でも教職員や学生による多様な地域連携事業の展開と広報に努めていきたいと考えております。どうぞ、今まで以上に、本学の地域連携活動にご協力、ご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げる次第です。

Ⅰ
「学まち連携大学」促進事業

2020～2023年度

「学まち連携大学」促進事業

山科・醍醐地域で「変化を楽しむ」地域連携型教育プログラム

2020年度から2期目の採択を受け、新たなプログラムを展開しています。
「山科・醍醐地域で『変化を楽しむ』地域連携型教育プログラム」と題し、地域連携活動の可視化をテーマとした①「見える！！地域連携」プロジェクトと、京都薬科大学との連携による②「区民に身近な大学へ」プロジェクトの2つを実施しています。

①「見える！！地域連携」プロジェクト

地域連携活動を下記4つの視点で可視化（見える化）します。

学生ニーズの可視化

▶学生による公募型地域連携活動への助成事業
「学まちチャレンジ！プロジェクト」
→P.6～12

教育効果の可視化

▶PROGテスト※による学生の成長度測定事業
▶卒業生へのインタビュー事業 →P.13
※ジェネリックスキルをリテラシーとコンピテンシーの2つの観点から測定

活動成果の可視化

▶京都薬科大学との共同学生団体ME-ME（ミーム）による地域活性化事業の発信

京都薬科大学と連携

地域の変化の可視化

▶地域連携活動対象地域におけるアンケート調査事業
▶大学認知度調査事業

②「区民に身近な大学へ」プロジェクト

「地域貢献」と「学生教育」の観点から京都薬科大学と連携し、下記の取組を実施いたします。

市民向け共同公開講座の実施

本学と京都薬科大学の教員が講師となり、市民向けの役立つ講座「京のやくたちばなし–健康で豊かに暮らすコツ–」を開催しました。
→P.16

共同学生団体の設立・活動の展開

2020年度に設立した本学と京都薬科大学の学生からなる共同学生団体ME-ME（ミーム）が、様々なイベントを実施しました。
→P.14

山科・醍醐地域医療人養成プラットフォーム（仮）

京都橘大学・京都薬科大学・地域の連携による、医療人の養成と地域活性化を目指します。今年度、合同多職種連携教育（IPE）を実施しました。
→P.15

京都薬科大学との連携でより身近な大学へ

【「見える！！地域連携」プロジェクト】学生ニーズの可視化

学生による公募型地域連携活動への助成事業「学まちチャレンジ！プロジェクト」

本事業は、本学学生から応募される主体的な地域連携活動に対し助成を行うものです。
学生の地域社会における多様な学びを支援し、自主性・企画力・課題解決能力・コミュニケーション能力を培い、その活動をもって、地域貢献や大学活性化、学生文化の向上につながるように実施するものです。

募集対象　地域社会への貢献を目的とした取り組み（対象地域は京都市内に限る）
応募資格　本学の正規学生（学部生、大学院生）で原則３名以上のグループ

2021 年度採択団体一覧

NO.	チーム名	プロジェクト名	概要
1	Reha Papers（リハ　ペーパーズ）	スマホをひらくその時間が、リハビリの勉強に！	リハビリの知見発信サイトを開設し、世界中から発信されているリハビリの知見をライターとしての協力者が意訳し、記事として、手軽なコンテンツを目指し発信するプロジェクト。
2	えしかるず橘	エシカルマルシェ	山科エシカルズが行っている「山科エシカルマルシェ」に参加し運営を行うほか、山科川の清掃活動、京都市内のエシカルマルシェの実態調査などを行う。 エシカルマルシェ…SDGs を意識した商品を販売する企画。
3	居場所づくり支援学生団体	クリスマスリースで居場所を作ろうプロジェクト	山科区における高齢者事情の調査を京都市のデータベースなどを用いて行い、クリスマスリース作りのワークショップの準備、開催を行う。また、アンケート集計を行い高齢者のニーズを把握する。
4	歴史遺産学科考古学コース有志	「アートロードなぎつじ」出展 ―橘生が挑戦する山科歴史再発掘―	京都市営地下鉄椥辻駅改札前の展示スペース「アートロードなぎつじ」において、山科区内の遺跡から出土した遺物を中心に、山科区の歴史と文化をわかりやすく解説したパネル４～５枚とともに展示する。
5	まちづくり研究会	音でつながる高齢者の居場所	地域の高齢者を対象に、役立つ情報・家での過ごし方・学生との交流機会・心身の健康などをコンセプトとした交流会を開催。体操や料理、音楽などを企画する。
6	とんだたぬき	山科冬季えんげき計画 2021	山科区北花山 臨済宗妙心寺派華山寺を会場とし、山科を舞台にした紙芝居を演劇用の台本におこし上演を行う。演劇を接点としたコミュニティの形成を目指す。
7	山科に行くっ！	「いつか山科いこう」～山科駅前から山科の魅力情報を発信するプロジェクト～	山科の観光・魅力スポットの現地調査を行い、山科以外の方に山科の魅力を伝えるパンフレットを作成。学内や山科駅で配布を行い、山科の魅力を発信する。

学まちチャレンジ！プロジェクト

スマホをひらくその時間が、リハビリの勉強に!

Reha Papers(健康科学研究科院生有志)

プロジェクトの内容

地域連携センター公認学生団体「Reha Papers」は、京都を中心に地域連携活動に関心を持つ大学院健康科学研究科の博士前期と博士後期から集まった学生による団体です。

最新の知見は英語論文に多いですが、英語の論文まで読むセラピストは少なく、良い知見があっても患者さんに還元されるのは時間がかかってしまっています。

そこで、９月から「スマホをひらくその時間が、リハビリの勉強に！」をプロジェクトのテーマとして、京都で活躍する若手のリハビリ関連職である理学療法士（PT）や作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）に向けた最新の有意義な知識を発信するリハビリ関連職向けの専用サイトの開設を企画しました。

５人の博士課程、修士課程、認定療法士のメンバーの協力を得て、講師の指導のもと、リハビリ関連の英語論文を意訳して記事としてサイトに掲載しています。

プロジェクトの成果と学び

若手のセラピストを対象としていたので、プログラマーの方と協議し、通勤中や通学中、休憩中に閲覧してもらえるようにパソコンのみではなく、スマホから見てもらえるようにシステムを工夫しました。

その成果として、9月1日から週2回、月8回の頻度で延べ35記事を載せました。そして、現時点で149名の方に、472回、1113記事（平均4分18秒）を閲覧して頂きました。また、リハビリ関連職は知識のアップデートに積極的であるものの、コロナ禍の影響もあり、若手セラピストに臨床で活用できる知識を提供するような取り組みはまだまだ少ないことが分かりました。

今回の取り組みをとおして、頭の中で考えていたことを実際に形にし、閲覧数などの数値で結果を確認することができました。また、京都のリハビリ関連職のみなさんにこういった専用のサイトがどのくらい必要とされているかを確認できたことは大きな経験になりました。

今後の展開

リハビリ専用サイトに私たちが面白いと思う英論文を記事にしても、必要としてくれる方に見てもらえないと意味がないことに気づきました。今後は、私たちが伝えたい内容ではなく、ユーザーが知りたいと思っている内容の記事を載せて取り組みを継続していきたいと思います。

今回の取り組みをとおして、京都内に限らず若手セラピストのスキルアップを目的としたリハビリ知見サイトの取り組みはまだまだ少ないことが分かり、次年度以降、プロジェクト内容の再考やメンバーの役割の明確化、新規メンバーの獲得、今回の企画を通して得た運営ノウハウを新規メンバーへの引継ぎなどを行い、さらに活動を推進していきます。

まずは、今年度制作したリハビリ専用サイトに新しい内容の取り組みを展開していきたいと思います。そのため、協力して頂ける方との連携を強化し、新たなチャレンジを進めていきたいです。

Reha Papers
―スマホを開くその時間が、リハビリの勉強に―
https://rehapapers.com/

学まちチャレンジ！プロジェクト

エシカルマルシェ

えしかるず橘(歴史遺産学科・児童教育学科・経営学科・都市環境デザイン学科・心理学科有志)

プロジェクトの内容

このプロジェクトでは、京都府や京都市などが推奨している「エシカル消費」の活動として、地元マルシェとその他イベントを複合させた活動を行いました。

近年、地球環境や人・社会への配慮を意味する「エシカル」という言葉が聞かれるようになり、エシカル消費の活動が世界でも広がっています。世界中から商品やサービスを手に入れることができるようになり、それがどこで、どのように作られたものかを知らずに購入することが多くなりました。身の回りにある商品の向こう側では、社会や環境に負担を与える生産や廃棄が行われていることがあります。持続可能な社会を作るためには、私たちの暮らしが、社会・環境・地域に影響を与えていることを理解することが大切です。しかし、エシカル消費への認知度が低く、実際の実践活動はまだあまり進んでいない状況です。このような中、エシカルマルシェを通してエシカル消費を広め、地域住民のエシカル消費や環境問題への意識を変えるきっかけを作りたいと考えました。

山科区内でエシカルという言葉や習慣を広める活動をされている「山科エシカルズ」と連携し、エシカルマルシェの運営を行いました。また、山科区内のショッピングセンターにおいて、地域住民、特に小学生を対象にした牛乳パック紙すき体験、エコバッグ制作ワークショップを同時に開催し、楽しみながら環境のことを考えてもらう場を提供しました。

プロジェクトの成果と学び

第１回　10 月 9 日（土）　エシカルマルシェと紙すき体験
第２回　11 月 27 日（土）　エシカルマルシェとエコバッグ制作ワークショップ

第１回の紙すき体験では約 40 人の方にご参加いただきました。材料の牛乳パックは、山科の飲食店の皆さんにいただいたものや、学生の家で出たものを使用しました。

第２回のマルシェとエコバッグ制作ワークショップは本学の大学祭で行いましたが、用意した商品は完売し、エコバッグも100枚配ることができました。エコバッグ制作ワークショップでは、イラストを描いたり、ハンコを押すなどをしてオリジナルエコバッグを制作してもらいました。参加者からは、「楽しかった」や「とても助かる」などと言っていただきました。

この活動に携わったことで、エシカル消費を身近に感じることができ、普段の行動を見直すきっかけとなりました。イベントを企画していく中で、様々な視点から物事を見て、考える力がついたと感じています。また、多くの人と関わり、連携する必要があり、とても大変でしたが、良い経験になりました。加えて、実際に地域に出て活動できたことで、新しい価値観に触れ、山科の魅力や課題について考え、多くのことを学ぶことができました。

今後の展開

今回の活動をとおして、活動の認知度の低さが課題だと感じました。様々な地域の方々が活動をされていることを知りましたが、私たちが知らなかったように、学生や地域の方々がエシカル消費に関わる活動自体を知らないため、広報や広告などを工夫する必要があると感じました。また、地域で活動している方々、活動したい方々は多いものの、交流・参加する機会が少ないため、発展しにくい状況なのではないかと感じました。

今後、エシカル消費に関係するイベントを行うだけでなく、楽しく、交流ができるイベントを考えていきたいと思います。その一つとして、これから無印良品京都山科様と協力して交流ができる清掃活動を企画しようと考えています。さらに、新たなまちづくりネットワークを広げていけるような企画を検討していきたいです。

紙すき体験

エコバック

エシカルマルシェ（本学学祭）

学まちチャレンジ！プロジェクト

クリスマスリースで居場所を作ろうプロジェクト

居場所づくり支援学生団体（国際英語・歴史学科・経済学科・作業療法学科有志）

プロジェクトの内容

山科区は京都市内で２番目に高齢化率が高い地域です。このことから、山科区内の高齢者の孤立を少しでも減らすために、私たちは高齢者のコミュニティづくりに貢献したいと考えました。そこで活動の目的を①高齢者孤立の予防②高齢者に新しい文化に触れてもらう③山科の高齢者事情の把握　の３つに設定し、クリスマスリースづくりのイベントを企画しました。

しかし開催に向けた準備を進めるなか、新型コロナウイルスの第５波の到来を主な理由として企画が白紙となり、ターゲットを含めて計画を見直すべき状況となりました。

季節感を感じられるイベントやコミュニティが広がるようなイベントの開催機会が減っていることを受けて、クリスマスリースイベントは開きたいと考えたため、イベントの対象者を全年齢に変更しました。

イベント開催まで短期間であり、またメンバー全員が１回生であったことから、イベント運営に長けている本学まちづくり研究会と一緒に活動していくことで、短期間で企画立案から準備、イベント開催まで進めていくことができました。

プロジェクトの成果と学び

・第１回　12 月 11 日（土）13 時～ 16 時　イオンタウン山科椥辻　参加者 46 名
・第２回　12 月 18 日（土）11 時 30 分～ 13 時　西本願寺山科別院　参加者約 15 名
　※第２回は、まちづくり研究会が開催する他イベントと共同開催

第１回のイベントに参加してくれた方がイベントに興味を持ってくださり、第２回のイベントにも参加していただきました。その方はこのようなイベントがどこで開催されているのか知れる場所が欲しいとおっしゃっていました。参加者で多かったのは親子連れでしたが、高齢のご夫婦など幅広い世代の方にも楽しんでもらえるイベントになりました。

今回の取り組みをとおして、グループ内の他のメンバーと協力して意思疎通と情報伝達をしっかり行うことの重要性を学び、１つのことを達成する力を身に付けることができました。先のことを想像したうえで準備をすすめていくことで、突然の出来事にも柔軟に対応することができることも学びました。子どもや高齢者の方が、何か困っていたり、何か聞きたそうにしている場合、積極的にこちらから話しかけ、コミュニケーションをとっていくことが大事なことも取り組みを通して知ることができました。このプロジェクトに取り組んだことで、コミュニケーション力、統率力、判断力等の問題解決力を養うことができたと感じています。今回の反省点としては、スケジュール関係の段取りや連携が上手くいっていなかったことが挙げられます。メンバー内での情報の共有をもっと強化すべきだったと思います。

今後の展開

現状では、新型コロナウイルスの影響でイベントを開催する機会が減り、地域のコミュニティが狭まってしまっているのではないかと思います。今後、地域住民へのイベントの提供とともに新たなコミュニティ形成を目的としたイベントを開催できるよう検討していきたいと考えています。

リースづくりの様子①

リースづくりの様子②

リースづくりの様子③

学まちチャレンジ！プロジェクト

「アートロードなぎつじ」出展

－橘生が挑戦する山科歴史再発掘－

歴史遺産学科考古学コース有志

プロジェクトの内容

学芸員の仕事の１つに、「文化財の展示」があります。文化財の展示は、地域から検出された遺跡や遺物を、その地域に住む人々に伝える役割があります。今回、考古学を学ぶ私たちが学芸員の仕事を主体的に学ぶために、椥辻駅で山科区から出土した遺物の展示を行いたい、という声をあげ、メンバーを集めました。そこで京都市考古資料館・（公財）京都市埋蔵文化財研究所・山科区役所と協働し、学芸員の仕事にもある展示作業を学生中心に実施することにしました。

山科区民をはじめ、多くの人に山科の長い歴史と文化を知ってもらいたい、という思いと私たちが学ぶ「型式学」という考古学の基本となる方法と学びの成果を発信したく、このプロジェクトを立ち上げました。

プロジェクトの成果と学び

文化財の展示は、資料調査、展示パネルの作成、物品の購入など、展示作業以外にもたくさんの仕事があります。

今回、学生が主体となり京都市考古資料館にて資料選定、伏見水垂収蔵庫にて資料調査を行い、椥辻駅にて展示替えを実施しました。このような学芸員の基本となる学びの経験を培うことができ、学生自身の力を養うことができました。また広報活動では、京都市山科区の公式アプリである「山科プラス＋」への掲載が行われたこと、さらに、山科区内で活動されている「ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会（ふるさとの会）」と連携した企画を検討し準備をすすめてきました。今回はコロナ禍で実施にはいたらなかったものの、今後に活かせる関係づくりができたことは成果であるといえます。

今回、展示内容の企画から、資料調査、展示品の選定、説明パネルの作成、展示作業まで、学芸員の仕事の一部分を体験することができました。考古学の方法論の一つである型式学について、わかりやすく伝わるような展示構成を意識しました。例えば、土器の口縁部の形状の変化に着目しやすいように、土器を並べる順番や展示する角度をメンバー全員で相談しながら調整しました。展示ケースの周りは薄暗く、目立ちにくいため、展示手法を学び新しい展示構成を考えることも今後の課題の一つだと感じました。

毎月の掃除では、完全に密閉されているように見える展示ケース内にも新しく埃が溜まっており、継続的なメンテナンスの必要性を強く感じました。このようなことは実際に清掃活動に携わらないと気付きにくいことであると思います。また、京都市考古資料館の山本館長や、山科区役所など学外の方と協力する機会も多く、大学の中では得られない交流も生まれたと思います。

今後の展開

目下の課題としては、展示ケースの存在を駅の利用者にアピールすることです。展示ケースの周りは薄暗く、ケース自体も低い位置にあるため、人通りは多くても注目を集めにくいのが現状です。また駅構内の防犯上、ケース外に物を置くことが難しいので、展示ケース内の工夫によって人目を引く展示を作っていきたいと思います。具体的には展示用のライトや明るい色の背景パネルを設置することなどを考えています。

また、展示を見た人の反応を得るため、アンケート用紙を記入してもらうことやパンフレットの配布などを検討していましたが、接触を避けるため実施できませんでした。今後、ＱＲコードを経由して感想をもらうといった非接触型の方法も考えていければと思っています。

今回、コロナ禍により予定していたふるさとの会との連携を実現できなかったので、新型コロナウイルスの流行が落ち着けば、展示ケース前での説明や講演会、その他のイベントなどで地元の人々とも交流していきたいと思います。また、地域の小学校や区役所と協力することでより広く活動を知ってもらえるように努めていきたいです。

展示作業①

展示作業②

展示：弥生土器とその変化

学まちチャレンジ！プロジェクト

音でつながる高齢者の居場所

社会・工学系学会　まちづくり研究会有志

プロジェクトの内容

伏見区醍醐地域に住む高齢者の交流や健康促進を目的に、知育楽器である「ドレミパイプ」を用いてイベントを行いました。本来は本学と協定関係にある京都市営醍醐中山団地の住民の高齢化・孤立化が進行していることを受けて企画されたプロジェクトでしたが、新型コロナウイルスの蔓延により醍醐中山団地でイベントを開催することが困難となりました。そこで醍醐いきいき市民活動センターの方々の協力を仰ぎ、同センター内高齢者ふれあいサロンにてイベントを開催する運びとなりました。

イベントの具体的内容は、歌謡曲の楽譜を用意し、学生の補助を交えながら参加者同士でドレミパイプを演奏するというものです。参加者の募集方法として、開催場所の醍醐いきいき市民活動センター職員の方から醍醐に住む高齢者向けにダイレクトメールを送信してもらい、イベントの開催を予告する方法をとりました。醍醐中山団地を舞台に据えていた時とは違い、醍醐に住む高齢者という広すぎる範囲でどう参加者を募るか思案していたところ、醍醐いきいき市民活動センター職員の方からこの方法をご提案いただくことができました。

プロジェクトの成果と学び

今回のプロジェクトでは、交流や健康促進を目的に醍醐いきいき市民活動センターで２回イベントを行いました。１回目の参加者は４名で事前予約が２名、飛び入り参加が２名でした。

当日は呼ばれたい名前を紙に書いてもらい、その名前で呼び合いながらドレミパイプに挑戦しました。楽譜を見ながらドレミパイプを叩くことは難しく、初めこそ手いっぱいという印象でしたが、参加者は繰り返し練習するにつれて慣れて余裕が出てきたように感じました。最終的にはピアノ伴奏と合わせて完奏することができ、表情からも楽しさが読み取れました。２回目の参加者は５人で、１回目に続いて参加してくださった方が４人、新規の参加者が１人でした。１回目と同じく、呼ばれたい名前を紙に書いてもらい、その名前で呼び合いながらドレミパイプに挑戦しました。どちらのイベントでも感想を聞くと「小学校の合奏を思い出した」「頭の体操になった」「とても楽しかった」という嬉しい言葉をいただき、さらには参加者同士で友達になるという、新しい関係作りの促進に繋がりました。

また、12 月にはこども食堂にじいろキッチン（西本願寺山科別院）のイベントに参加させていただき、「ドレミパイプ」「ハンドベル」の演奏体験コーナーを行いました。予め用意していた練習曲をはじめ、流行りの１ 曲、ベルならではの曲など、参加者の方々には思い思いに演奏していただきました。感想を聞くと「音楽を楽しめた」「初めて見る楽器で面白い」「懐かしさを感じた」などのあたたかいコメントをいただけました。また、イベントに参加している初対面の人同士で１つの曲を演奏するといった場面があったため、交流の促進にもつながったのではと感じました。

これらの取り組みから、コミュニティ形成における音楽演奏の有用性の高さを再確認できました。高齢者の交流を目的としたプロジェクトを運営するにあたり、代替案として接触を抑えられるドレミパイプ演奏を用いて企画を進めましたが、参加者から知っている曲を演奏することの楽しさ、会話を交えることなく参加者同士で生まれる一体感が評価されたことにより、楽器演奏だからこそ成り立つ交流会もあるのだと学びました。コロナ禍に限定せず、今後も新たな交流方法として楽器演奏を用いることを提案したいです。

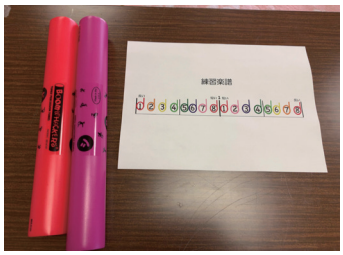
今後の展開

今回のプロジェクトを通して課題だと感じたところは、主に２つあります。１つ目は参加者のニーズに応え、学生が参加者の方にどれだけ寄り添ってイベントをできるかということです。具体的には、今回のプロジェクトではドレミパイプを用いましたが、演奏するにあたり楽譜を読むのが得意な人と苦手な人、初めての人など参加者の間で個人差があるということに気づきました。また、周りの方と話すのが得意な人、そうでない人がおり参加者同士が交流するにあたり、参加者全員が楽しんでもらえる環境を作ることに苦戦し、今後改善していく点だと感じました。

２つ目は、より多くの方にイベントのこと、醍醐いきいき市民活動センターという場所を知ってもらいコミュニティの幅を広げていけるかということです。。全２回同センターにて行われたイベントですが、２回とも参加者の方がほぼ同じという結果になりました。１回目のイベントを通して参加者同士の仲が深まり、２回目には、一緒に参加されるケースがありました。このイベントに参加していただいたことをきっかけに、新たな人間関係が生まれたことは大変良いことだと感じます。しかし、元々は住民の高齢化・孤立化が進行していることを受けて企画されたプロジェクトであり、よりコミュニティ外に出てもらい、たくさんの方と関わり合い、コミュニケーションを取る場を設けることが目的であったため、１回目と２回目の参加者が同じメンバーとなってしまうことは課題に感じた部分であり、今後改善していく点であると考えます。

醍醐いきいき市民活動センターでの様子

にじいろキッチン
（西本願寺山科別院）での様子



ドレミパイプと練習楽譜

学まちチャレンジ！プロジェクト

山科冬季えんげき計画 2021

とんだたぬき（演劇部有志）

プロジェクトの内容

とんだたぬきは、京都橘大学演劇部「劇団洗濯氣」所属部員を中心に構成された演劇団体です。１月末に、山科区に所在するお寺を会場に、演劇公演を実施することを目標としました。新型コロナウイルスの流行により、演劇をはじめ舞台芸術は８割の業界損失を受けるなど、大きな打撃を受けています。また山科区では、演劇公演を実施する劇団や事業者が見られません。

そこで本企画は、山科区における演劇文化の浸透及び山科地域への関心向上を目的として設定しました。山科区に関連する作品を演目とし、山科区民にとっては馴染み深く、山科区外の京都市民にとっては山科区に興味関心を抱くきっかけとすることを狙いとしています。また、本公演の会場「華山寺」のご住職はかねてより京都橘大学との連携を希望してくださっており、本企画を通じて華山寺と京都橘大学に繋がりを持たせ、次代においても演劇を通したコミュニティづくりが継続されていくことを目指しました。

プロジェクトの成果と学び

①１月 29 日（土）13 時～
②１月 30 日（日）11 時～／ 16 時～

来場者数は 29 日 (土) で 21 人、30 日 (日)11 時で 25 人、16 時で 25 人、２日間３ステージでの本公演の総来場者数は合計 72 人でした。新型コロナウイルス対策により座席同士に一定の間隔を設けて設置しました。各回最大 29 席の客席数であったため、２, ３ステージ目はほぼ満席に近い集客でした。

公演に足を運んだきっかけとして最も多かったのは「関係者からの紹介」（30 件）で、華山寺関係者や劇団関係者からの紹介が多くありました。華山寺は地域の方に向けて、除夜の鐘撞きや餅つき、座禅体験といった催しを頻繁に行っておられ、その参加者へ住職直々に公演を紹介されたことが、大きな動機となっていると考えられます。２番目に多いのは「ＳＮＳ」（14 件）で、本公演ではTwitterを利用し広報を行っていました。関西の演劇関係者に広く周知され、来場につながったと考えられます。また、本公演は 2022 年１月 15 日発刊「市民しんぶん山科区版」第 313 号に掲載されました。掲載記事がきっかけとなったのは 11 件で、３番目に多い結果となりました。以上から、本公演は山科区民に多く来場されつつ、ＳＮＳを通じ山科に接点のない人にも来場していただけたことがわかりました。そのため本企画の目的及び狙いは達成したといえます。これまでは演劇部内や関西小劇場界隈でしか活動しなかった演劇を、山科を会場に実施することで、演劇が果たす地域への働きかけに少なからず寄与したものと考えます。本企画を通じ山科が舞台である小説の存在を周知したり、華山寺を通じ普段では関わらない地域の方との接点が生まれました。

今後の展開

設立時点では３名であった公演メンバーは、公演時点で９名となり、その他当日の運営協力、企画遂行の上での助言など華山寺のご住職をはじめ数多くの方にご協力をいただきました。

今回のようなプロジェクトを継続的に実施するには、あらゆる担い手の参画と、それぞれの主体性の向上が必要となると考えます。京都橘大学の学生と華山寺に接点を持たせることを狙いに、本公演の当日運営は劇団洗濯氣の１, ２回生を中心に依頼しました。昨今の感染拡大状況を背景に、劇団洗濯氣では有観客公演の実施許可が下りない現状にあるため、本公演の運営は貴重な機会となりました。会場で来場客と直に接することで、危ぶまれる劇場の存在意義の再認識や上演意欲の刺激を通し、今後に渡っても再び華山寺を会場に演劇公演を実施することにつながるものと考えます。また、本企画は「ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会（ふるさとの会)」や「山科三条商店会」、華山寺との関係から山科図書館長にも周知されました。多方面の団体や共同体と関係を構築する華山寺を会場とすることで、多様なコミュニティに興味関心を持っていただくことができました。こうしたきっかけを丁寧に発展し劇づくりに活かせば、作品の魅力向上や実行可能性の拡大につながるのではないかと考えます。本企画を通じ得た個人、団体との接点を、山科区をフィールドに活動する京都橘大学の学生という立場から活かすことで、他にはない独自性に溢れた企画を継続的に実施することが可能になると考えます。

稽古の様子

会場の華山寺本堂

出演者集合写真

学まちチャレンジ！プロジェクト

いつか山科いこう

～山科駅前から山科の魅力情報を発信するプロジェクト～

山科に行くっ！（歴史学科・経済学科有志）

プロジェクトの内容

現在、新型コロナウイルスの流行により観光が制限され、停滞しています。その影響で、山科の魅力に関する情報を発信する場や機会が少なくなっています。そうした状況の中で「いつか山科に来てくれる」ように、山科観光の起点である山科駅付近の魅力情報を山科内外の人に発信しようという目的で今回のプロジェクトを企画しました。

まず、山科駅周辺の魅力的な店や神社仏閣を調べ、リスト化し、その中から自分たちが取り上げたいところを選びました。そして、選んだところへ取材に行き、写真撮影を行いました。成果物としては、気軽に手にとって見てもらえるようにＡ４サイズのリーフレットを作ることとしました。デザイナーと協力しながらリーフレットのデザインを考え、取材した内容をまとめた原稿と撮影した写真を当てはめ、リーフレットを完成させました。リーフレットは大学で学生や教職員にむけて配布し、またその他に大学内の掲示スペース、取材にご協力いただいた寺社やお店、山科区役所に配架させていただきました。

プロジェクトの成果と学び

コロナ禍ではありましたが、無事に取材を行うことができ、山科に携わる方々の生の声をお聞きできたのは非常に貴重な経験となりました。また、取材に応じてくださった方々やデザイナーの方など多くの人たちの協力を得て、活動を進めることができました。活動の最後に行った配布・配架で、大学や取材に応じてくださった方々にリーフレットを渡すことができ、また、家族や友人などにも配布を行い、多くの人たちにリーフレットを行き渡らせることができました。今回リーフレットの作成・印刷にデザイナーの方が協力してくださいましたが、デザイナーの方にお任せしたことで、自分たちが携われていない部分があったことが今回の活動の反省点です。

このプロジェクトによって、山科に関する情報の収集や取材を通して今まで知らなかった山科の魅力について理解を深めることができました。また、情報を集めてのリスト化や取材アポイント、そして実際に自身がインタビュアーとして取材したことなど、初めて経験することが多く、うまくできるか不安がありましたが、それらのことを通して情報の収集や整理の効率的な方法、相手とのコミュニケーションの取り方などを身に付けることができました。

今後の展開

今回のプロジェクトで作ったリーフレットをシリーズ化し、次回からは今回のプロジェクトのリーフレットで載せたところとは別の店や神社仏閣、他に伝統品や特産品、行事などを載せていきます。また、作成したリーフレットをネット上やＳＮＳ、専用のアプリに載せて、より多くの人に見てもらえるようにしたいとも考えています。今回のプロジェクトではＡ４サイズ裏表１枚のリーフレットでしたが、今回の経験を活かして、次回以降、パンフレットやガイドブック形式にして、より細かく山科の魅力を取り上げられるようにもしたいです。

デザイナーとの話し合いの様子

完成したリーフレット

卒業生へのインタビュー事業

学生時代の課外活動から

卒業生の学びの見える化

地域連携センター

地域連携活動の学びを見える化する

本学が採択されている京都市「学まち連携大学」促進事業の一環として、地域連携活動の意義を可視化するために本学の卒業生にインタビューを行いました。この取り組みでは、在学中に積極的に地域連携活動に取り組んだ卒業生に対するインタビューを行い、その学びの成果について考察し、「決断科学の学び」の当事者の語りから、「実践活動を通した学び」の意義や合理性を考察することを目的としています。本年度は、看護学部（３名）、健康科学部（１名）の卒業生に対して、大学生時代の生活や地域連携活動にかかわることになったきっかけ、現在の職業にその経験がどのように役立ったのかについてインタビューを行いました。

インタビューで当時を振り返る

インタビューでは、当時かかわっていた先生を交えて、地域連携活動に参加することで得た学びや、それが今の仕事にどう活かせているのかなどについて質問しました。参加するきっかけとして、授業の実習や先生からの告知で地域にかかわることが多く、その取り組みの中では「地域住民と交流を積み重ねることで、社会課題の本質を知る機会になった」、「専門的な技術だけでなく、地域の方から、話を聞き出す技術も大事であり、今の仕事を行っていく中で貴重な経験だった」など、大学生時代に得た経験から現在の仕事のやりがいや魅力につながっている話がありました。

また、卒業生は久しぶりに会う先生と当時の地域連携活動で知らなかった裏話や取り組みのねらいなどを聞きながら懐かしんでいる様子で、母校と卒業生をつなぐよい機会にもなりました。

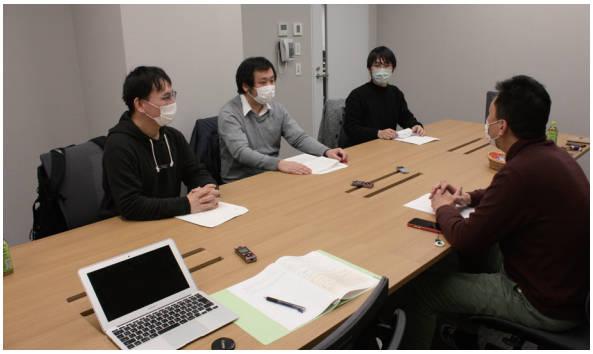
取り組みの成果

インタビューの共通点として、地域連携活動を行った卒業生から、「社会に出たときに改めて地域連携活動の大切さを感じた」、「地域連携活動に取り組むことで、自分が将来就きたい職業がより鮮明になった」などの意見があがりました。単なる学生時代の活動だけでは終わらない経験ができるのも本学の地域連携活動の魅力かもしれません。また、卒業生は学生時代、本学が取り組んでいる地域連携活動以外にも地域での活動に参加していたこともインタビューでわかりました。今後は、本学が行う地域連携活動以外で学生が参加する活動を把握していく必要があると感じています。

今回の取り組みの中で、これまで卒業生に対して大学時代の地域連携活動での学びがどのように現在に活かせているかについて聞く機会がなかったため、これからの地域での取り組みのあり方について考える有意義な時間でした。引き続き、来年度も卒業生にインタビューを行い地域連携活動における意義やあり方について調査を続けていきます。

インタビューの記事は、下記のページでご覧いただけます。
URL：
https://tachibana-kyoyaku-gakumachi.tachibana-u.ac.jp/interview/

心理学科卒業生インタビュー



看護学科卒業生グループインタビュー

京都薬科大学との連携事業

共同学生団体 ME-ME における

「薬膳喫茶」「介護予防ワークショップ」の実施

本学学生×京都薬科大学学生

共同学生団体 ME-ME（ミーム）の発足

共同学生団体「ME-ME (ミーム)」は、2020 年度に発足した京都薬科大学と京都橘大学の学生による団体です。山科・醍醐地域における地域活性化を目的に、様々な立場の地域住民を対象に実践的なアプローチを行っています。2021 年度はコロナ禍の影響で両大学の学生が対面することは叶いませんでしたが、オンラインミーティングなどを通じて活動を模索しました。その結果、地元住民が景観と触れ合う「薬膳喫茶」、高齢者の健康増進を目的とした「介護予防ワークショップ」の 2 つのイベントを実施することができました。

「薬膳喫茶」の実施

11 月上旬に行った「薬膳喫茶」は、くつろぎ空間でお茶を飲みながら景観を楽しみ、地域の魅力を再発見してもらう目的の元、山科区にある春秋山荘にて開催しました。このイベントでは、中国の屋外に椅子とテーブルを出してお茶を楽しむ「茶座文化」を参考に、春秋山荘の敷地内にテーブルとイスを設置し、茶器セットやテーブルゲームを用いてくつろぎ空間を提供しました。このイベントの開催に向けた事前練習として、実験的に京都橘大学構内にて同様のイベントを行いました。事前イベントでは、座ろうと思った理由や利用して良かった点などをアンケート調査しました。そこで得た結果を元に、グッズの配置を変更する等細かい調整を行うことができ、より良い空間演出に繋げることができたと考えます。また、京都薬科大学は提供する茶葉の選定、京都橘大学は空間設計とイベント運営、それぞれの得意分野を分担して実施準備を行い、開催に至りました。

イベント当日は、春秋山荘で開催されていた写真展の来場者が休憩として利用してくださったり、散歩していた地域住民が寄ってくださったり、同時設置した子ども向けブースから来てくださったりと、様々な年齢層の地域の方々が、2 日間の合計で 50 人程度参加くださいました。各々がお茶と山科の素敵な景色をゆっくり楽しんでくださり、実施したアンケートでは「普段気付かなかった景色に気付けた」「初めてゆっくり川の音を聴いた」などと、満足度の高い回答を得ることができました。「別の場所でもしてほしい」など、嬉しいお声も多くいただき、達成感をもってイベントを終えることができました。

「介護予防ワークショップ」の実施

11 月中旬に行った「介護予防ワークショップ」は、京都市山科中央老人福祉センターで山科地域の高齢者福祉の推進に取り組むイベントとして企画しました。ここでは主に、ネイルアートを行うブースと、折り紙を行うブースに分け、高齢者の方の昔話を聞く回想法を取り入れるほか、高齢者の皆さんと細かい作業を行うことで認知症予防に取り組みました。また帰宅後も楽しんでもらう工夫として、京都薬科大学の学生が準備した介護予防の効能があるポプリ (匂い袋) と、ネイルアートを撮影した写真をプレゼントしました。

それぞれのブースで話が盛り上がり、ネイルや折り紙の写真を撮ったり、参加者同士見せ合ってコミュニケーションを取ったり、「今からネイル道具を買いに行くね」と自宅で継続したいと言う方がいらっしゃったりと非常に好感触でした。同時に、私たちの知らなかった地域のこと、暮らしの変化などもお聞きすることができ、貴重な経験となりました。

予約時点から定員を超える希望をいただいたうえ、終わり際には「次はいつ？」「また企画してほしい」と次回の要望も多くいただき大好評の企画となりました。参加者のお声から、楽しんで介護予防に取り組むきっかけづくりを行えた実感があり、大変嬉しく思います。

今後の展開

イベントではそれぞれ、新型コロナウイルスによる制約がある中、準備段階から様々な苦労がありましたが、無事開催に至った上、参加者から大変好評を得ることができました。次回の開催を望む声も多くいただいたので、両イベントで行ったアンケートの結果を生かしながら、山科・醍醐地域の色々な場所に広く展開し実施していきたいと考えています。今後とも、地域にある様々な課題解決に向け、自分たちにできることを模索しながら活動していきたいです。

薬膳喫茶：
座ってお茶を楽しむ参加者

薬膳喫茶：
同時設置した子ども向けブース

介護予防ワークショップ：
折り紙ブース

介護予防ワークショップ：
ネイルブース

京都薬科大学との連携事業

大学の垣根を越えたチーム医療教育

合同多職種連携教育（IPE）を開催

看護学科４回生×理学療法学科４回生×
作業療法学科４回生×京都薬科大学５回生

12 月 13 日（月）、本学清香館で、京都橘大学・京都薬科大学による合同多職種連携教育（IPE：Interprofessional Education）を実施しました。この多職種連携教育は、異なる医療教育を受けている学生たちが垣根を越えて学び、話し合うことを通じて、それぞれの職種の役割や専門性を知りチーム医療への理解や連携・補完し合える人材を育成することを目的に 2016 年度から開催し、今回で６回目となります。

本学からは看護学部・健康科学部理学療法学科に加えて健康科学部作業療法学科の学生と、京都薬科大学からは薬学部の学生各 12 名が参加しました。

当日は、看護師・理学療法士・作業療法士・薬剤師の立場からシナリオ事例に沿って、患者さんの病状や生活環境の把握、介入の仕方について議論をしました。第１部では、学科ごとのグループに分かれ、各職種でどのように患者さんの状況をとらえ、向き合うかを討論し、その結果を発表。第２部では、学科混合のグループで各職種の観点の違いや、介入できる点・介入してほしい点などを共有し、具体的にどのように協働できるか議論を深めました。そして、最後にはグループごとに意見をまとめて発表をしました。

参加した学生は「他職種の考え方を知ることで視野を広げることができ、各役割について改めて考えることができた」と話しました。学生それぞれが各職種における観点の違いに理解を深め合いながら、何が患者さんにとってより良いのかと議論をしたり、専門的な用語や見解に質問し合ったりする様子がみられ、有意義な研修となりました。

＜プログラムの詳細＞

■当日のスケジュール

時　間	内　　容
12：30	受付開始
12：45 ～ 12：55	ガイダンス　事前アンケート回収
13：00 ～ 13：50	**第Ⅰ部：同学科でのＳＧＤ（50 分）**
13：50 ～ 14：00	移動休憩
14：00 ～ 14：20	**グループ発表（各３分）**
14：20 ～ 14：30	移動休憩
14：30 ～ 16：00	**第Ⅱ部：学科混成でのＳＧＤ**
16：00 ～ 16：10	移動休憩
16：10 ～ 17：00	**１グループ５分発表５分質疑**
17：00 ～ 17：30	講評　事後アンケート記入

援助計画発表①

援助計画発表②

学科混成のグループディスカッション

京都薬科大学との連携事業

市民向け共同公開講座

京のやくたちばなし ～健康で豊かに暮らすコツ～（全3回）を開催

本学と京都薬科大学が、①両大学の知的資源の社会還元、②山科・醍醐地域の住民への両大学の存在感の向上、③両大学の交流促進を目的とし、共同で市民向けの公開講座「京のやくたちばなし～健康で豊かに暮らすコツ～」（全３回）を開講しました。各回で、両大学から教員が１名ずつ登壇し、それぞれの視点で役立つ話を提供しました。

参加者の多くは、京都市在住が多く、対面で実施した第１回と第３回は山科区在住が最も多くおられ、地域の方へ広くアプローチすることができました。また、参加者年代は、50 歳代以上が大半を占めており、比較的年齢の高い方に興味を持っていただいたテーマとなりました。参加者は興味深く講演を聞かれており、対面、オンライン参加者いずれも質疑応答では、多くの質問がありました。

アンケートでは、「知らなかったことがたくさん学べて非常に有意義だった。興味深い内容であっという間だった。」という声や、オンライン形式で実施したため、「京都市内にある大学の講義を自宅でオンライン参加できることは画期的なことだと思います。大学がより身近になり、勉強をする、役に立つ話を聞けるのは生活の質を高め、より良いものになると思います。」などの好意的な声が多くよせられました。

満足度においては、「満足」と回答した参加者がいずれの回も 90% 以上となりました。

また、「大学を身近に感じるか」の質問に対しては、全３回平均 77%の方が「とても感じる」「やや感じる」と回答されました。幅広い年代の方に大学を身近に感じていただけるよう、引き続き共同公開講座を展開させていきたいと思います。

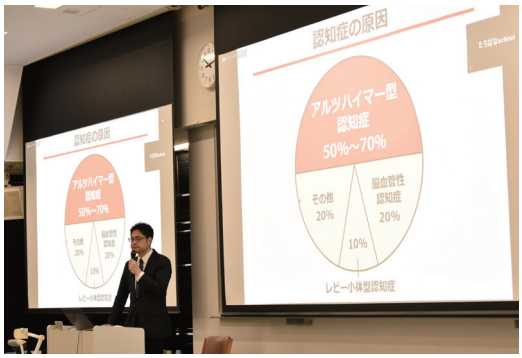
参加者

第１回　対面 78 名　オンライン 60 名　計 138 名
第２回　オンラインのみで開催　62 名 (緊急事態宣言下のため)
第３回　対面 50 名　オンライン 49 名　計 99 名

○第１回「認知症にまつわるやくたちばなし」

日時：2021 年 7 月 10 日 (土)10:00 ～ 12:00

「アルツハイマー病の現状と今後
～脳の免疫力と脳の若返り～」
講師：高田　和幸
（京都薬科大学　統合薬科学系　教授）



「知っていますか？
認知症と間違えやすい高齢者てんかん」
講師：所司　睦文
（京都橘大学　健康科学部臨床検査学科　教授）

○第２回「最期まで自分らしく生きるためのやくたちばなし」

日時：2021 年 9 月 4 日 (土)10:00 ～ 12:00

「いつまでも自分らしく過ごすために
～知ろう！緩和ケア、伝えよう！自分の気持ちを～」
講師：松村　千佳子
（京都薬科大学　薬学教育系　臨床薬学教育研究センター　講師）

「癌との闘いを支えた書道
～最後まで筆を放さなかった A 子さんのこと～」
講師：寺坂　昌三
（京都橘大学　文学部日本語日本文学科　教授）

○第３回「『食』と『住』のやくたちばなし」

日時：2021 年 11 月 6 日 (土)10:00 ～ 12:00

「健康食品ってなんですか？」
講師：長澤　一樹
（京都薬科大学　生命薬科学系　衛生科学分野　教授）

「京町家の知恵を生かして健康的に暮らす」
講師：土井　脩史
（京都橘大学　工学部建築デザイン学科　専任講師）

Ⅱ
地域連携活動

地域連携活動

学生向け京都観光ガイド付

オリジナル御朱印帳研究開発プロジェクト

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科　木下達文ゼミ

共同研究プロジェクトの概要

京都橘大学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科の木下達文ゼミでは、卒業研究とは別に共同研究プロジェクトを実施しており、座学と実践学とをバランス良く学習させています。今回のテーマは、いくつかの事業企画の中から近年注目されている御朱印帳を対象としてプロジェクトをスタートしました。本プロジェクトでは、御朱印自体を知らない学生に対して関心をもつきっかけとなる工夫を行い、あわせて京都のお薦めの観光モデルコースを設定することで、利用しやすさを考慮しました。最終的に、オリジナルの御朱印帳の開発と観光コースを冊子化した観光ガイドの編集・制作を行いました。

取り組みの経緯や狙い

本共同研究プロジェクトのねらいは、企画から制作までの研究実践活動を通じて、とくに学生の社会人基礎力を向上させるとともに、実社会で役立つ基本的なビジネスの知識やノウハウを体験的に学ばせることです。学生が自らテーマを決め実施する方法をとっており、ゼロベースから企画・研究・制作を行うことから「クリエイティブ・ラーニング」と称しています。また、最終的な成果は、一般でも通用するレベルのクオリティを目指しており、社会的な評価を得られることも目標としています。

具体的な成果と実績

具体的には、まず基礎文献により京都の観光・神社仏閣・御朱印の歴史などについて学び、その後学内で京都観光と御朱印帳の利用に関するアンケート調査を実施しました。企画では、単に御朱印帳を制作するのではなく、京都に限定した御朱印帳とし、観光事業と編集事業という２つの視点ですすめることとしました。また、「学生向けの商品開発」とコンセプトを定めることで、ターゲットを明確にしました。帳面だけでは、どのように回ったらよいのか分からないので、定番コースやデートコース、アニメ聖地コースなど、多様な学生に合わせたコースを考え、それらの企画・調査・冊子の編集を行い、印刷と並行してオリジナル御朱印帳のデザイン企画・制作を行いました。御朱印帳制作においては、御朱印帳を専門に制作する麗聲堂（京都市伏見区）の上田社長にお越しいただき、丁寧な制作上のコツなどを伝授いただけたので、かなりオリジナル性の高い作品を制作できたと考えます。最後には、これまでの経過や御朱印帳・観光コース冊子の特徴をパワーポイントに整理し、全員で完成発表会を行いました。

完成した御朱印帳のディスプレイ

観光ガイドの紙面

地域連携活動

オンラインで仲間と創作の喜びを分かち合う

オンラインものづくり教室

健康科学部作業療法学科教員＋学生

新型コロナウイルスによる活動の休止から

作業療法学科では学科の特性を生かし、高齢者を対象として作業（ものづくり）を通じて仲間づくりや活力づくりに貢献するヘルスプロモーション・プログラムを 2018 年度より実施してきました。学園祭出店など学生と高齢者の共同の取り組みを行ってきましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて 2020 年からは活動休止を余儀なくされました。感染すると重症化しやすいとされる高齢者は、家の中にこもりがちになり、「生活不活発」によりフレイル（虚弱）が進み、社会的交流も減ることから、心身や脳機能への影響が危惧されます。身体的フレイルについては様々な提案がなされていますが、「交流できないこと」への有効な提案は少ない状況です。そこで「ものづくり教室」をオンラインで再開しようと考え、Zoom の講習会を 3 回行った後に月 1 回のオンラインものづくり教室が開始されました。

ICT と高齢者と学生と

2021 年 1 月に第一回の「オンラインものづくり教室」を開催しました。参加者全員が、パソコンを操作して自宅から独力で、Zoom を介し、万華鏡を作成しました。画面を介してメンバー同士も会話し、「孫にプレゼントしたい」といった感想も聞かれました。教室は月 1 回、1 時間半～ 2 時間程度で高齢者 10 名～ 12 名と学生 1 ～ 2 名が参加しています。教員も 3 ～ 4 名参加しており、オンラインで交流するにはこれくらいの人数が限度なのではと考えています。

学生たちも自宅でオンラインでつながって高齢者たちと一緒に作品を作っていきます。作品ができあがると一人一人、作品を披露し、工夫したところ、難しかったところ、よくできているところなど、お互いに感想を交換し合います。

卒業研究での探究

3回生の二人は、このオンラインものづくり教室を卒業研究のテーマとすることに決め、「高齢者たちは、オンライン操作でどんなところに躓き、トラブルはどんなふうに解消されていくのか」「オンラインものづくりでは、どんな場面でもりあがっていくのか」に注目して、研究を進めています。学生たちは、高齢者たちが予想以上にオンラインを使いこなして、ビデオフィルターの機能で唇を黄色くして元に戻せなくなったり、バーチャル背景のままで作品を見せようとして作品が見えなくなったりと、好奇心、探究心ゆえのトラブルがあることに驚いたり、オンラインで披露するために前もって工夫した作品を準備していたり、材料を集めるために近所を散歩したりと、日常生活にもオンラインものづくり教室が影響を与えていることに着目しています。参加者同士の自主的なオンライン交流も生まれています。学生たちは高齢者と交流するだけでなく、どのようにオンラインものづくり教室が高齢者の健康増進につながっていくのかを探究していこうとしています。

作品と一緒に記念撮影

地域連携活動

地域の高齢者へ向けた取り組み

医療福祉研究会 NICO による介護予防講座の開催

看護学科・救急救命学科・理学療法学科学生

医療福祉研究会 NICO とは

京都橘大学医療福祉研究会 NICO は、医療福祉にまつわるボランティア活動を通して、人が健康に暮らせることを追求していくことを目的に発足した研究会です。看護学科や救急救命学科、理学療法学科などさまざまな学科の学生が所属しています。

京都市山科中央老人福祉センターにおける介護予防講座

山科区で暮らす高齢者の介護予防のために、医療福祉研究会 NICO が介護予防講座を開催しました。京都市山科中央老人福祉センターでは、高齢者を対象に多くの講座やイベントを定期的に開催しています。その一部の枠をお借りして、学生が企画・運営に取り組みました。

新型コロナ感染拡大による中止からのスタート

2020 年度から企画していましたが、新型コロナ感染拡大により中止になりました。2021 年は何とか実施したいという思いで、オンラインも含めて企画しておりましたが、何とか対面で実施することができました。10 月 30 日（土）と 12 月 11 日（土）に実施し、それぞれ約 20 名の方々にご参加いただきました。まずは準備体操でウォーミングアップをし、バランスボールを使用した簡単な体操に取り組みました。バランスボールは自重による関節への負担を軽減できるリハビリテーショングッズであり、全身の筋力をバランス良く整える効果があることから、アスリートも使用しているものです。参加した高齢者の方は、はじめはバランスボールへの難しさや不安を感じておられましたが、徐々に慣れて、楽しんで身体を動かされていました。

本研究会では、地域住民と学生が一緒になって自分たちの健康について考える機会を増やしていくためにも、このような取り組みに積極的に参加していきます。

バランスボールを使った体操の様子①

バランスボールを使った体操の様子②

地域連携活動

地下鉄を明るく魅力的に！～京都のまちづくり

駅ナカアートプロジェクト 2021 の活動

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科　河野良平ゼミ

駅ナカアートプロジェクトとは

駅ナカアートプロジェクトは、京都市内にある芸術・デザイン系の 12 の大学と短期大学と京都市の文化市民局と交通局で構成された KYOTO 駅ナカアートプロジェクト実行委員会が主催するアートプロジェクトです。その目的は、駅のイメージアップと活性化による京都のまちづくりへの寄与、“ 大学のまち京都 ” ならではの取組として「文化芸術都市京都」確立への一助となること、学・産・官の連携・交流を深め京都を支える人材への成長の機会を提供することの 3 つとなっています。

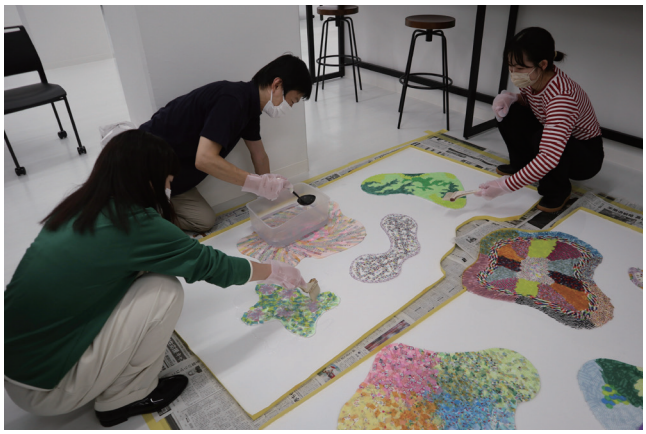
今年度の制作活動

今年度の活動は 3 月上旬から作品構想、6 月にあった中間発表会を経て、7・8 月に作品を制作し、9 月末から 11 月上旬を展示期間とし、最後に全体発表会（ジョイント・ミーティング）を開催しました。今年度の全体テーマはコロナ後を見据えた「Next…」です。本学の参加は 2 回生河野ゼミのメンバーですが、2 回生後期の授業として作品制作を予定していたため 2020 年度の 2 回生（現 3 回生）22 名と 2021 年度の 2 回生 20 名の 2 組が期間を開けて制作に取り組みました。前者のテーマは「コロナ大作」、後者は「タチバナコレクション」とし、作品にはコロナ禍であっても日常生活のなかで人と人がつながってほしいという思いが込められています。この活動はゼミ活動の一環として参加しており、駅という公共での場所のインテリアの在り方を考えながら制作に取り組んでいます。

制作の過程としては、壁面装飾の事例と各自のアイデア発表を行い、テーマやコンセプトを練っていきます。また、それと並行して制作意図を踏まえつつ、作品の大きさ、使用する材料、制作方法、コストなどについて検討します。そしていくつかの候補を試作し、その中から最終案を選んで実際のサイズで制作します。

教育効果と課題

学生への教育効果として、公共空間へ作品を実際に展示する際の心構えや制作に取り組む真剣さといった心理的な側面の成長が期待できます。授業で行う設計演習の課題では得られない現実感をもって制作に取り組むことの意義は大きいと思います。制作上の課題としては、メンバーが多いため、ゼミ内でテーマを一つに絞るのが難しい点があげられます。コロナ禍では対面でじっくり話し合いが行えませんでしたが、適切な対策をとりつつ意見交換や意思疎通を図る手段を学びました。また、作品設置後、乾燥による収縮が原因と思われる反りが発生し、作品の端部が壁面から一部剥がれる場合があります。実際に現場で起きる問題にどう対処していくかを考えるのも重要な機会になっています。



コロナ大作

タチバナコレクション

地域連携活動

山科の地域資源を活かしたあかりイベント

「七夕陶灯路 2021」の実施

社会・工学系学会　まちづくり研究会学生

山科地域の活性化を目的としたイベント

山科区の地域資源である「京焼・清水焼」を活かしたあかりイベント「七夕陶灯路 2021」を開催しました。このイベントは、伝統産業の振興や地域住民が交流する場の創出などを目的に実施されています。

今回で 13 回目となるテーマは、「Next the Era」です。新型コロナウィルス感染症の影響で、私たちの生活が大きく変化してしまいました。そのような状況の中で「これからの時代」を何思いどう行動していくかという意味が込められています。当日は、願い事を吊るす笹や約 1000 個以上の山科地域で生産された「京焼・清水焼」と切子グラスが並びました。

コロナ禍で、何ができるか考える

2020 年から新型コロナウィルス感染症が流行し、去年度は毎年恒例行事となっていた「七夕陶灯路 2020」と「やましな駅前陶灯路」が中止となりました。本年度は、やましな駅前陶灯路が中止となったものの、学内関係者のみという条件で七夕陶灯路を開催しました。感染予防対策で参加できない地域の方のために、YouTube のライブ配信を活用してミニ陶灯路と会場の雰囲気を配信しました。参加者は「当日は行けなかったが、今年は陶灯路が見られてうれしい。」「来年度もライブ配信を実施して遠くにいても見られるようにしてほしい」などの意見をいただきました。

また、感染予防対策として、参加者やスタッフへの手洗い・消毒の声かけやインターネットを活用した接触の少ない短冊の制作など様々な工夫を行い、これからのイベントのあり方に必要な対策を学ぶことができました。

伝統を継承していく

今回の七夕陶灯路の実施にあたり、新型コロナウィルス感染症によって、これまでなかった対策・対応が必要となりました。しかし、これからも感染が広がっていくであろう社会で、どのようにして安全にイベントを実施していくかを考える良い機会となりました。また、長期的に山科地域で続いている陶灯路だからこそ、これからも地域活性化と大学生の学びの場として取り組みを継承し、地域に愛される伝統のあるイベントとして続けていく予定です。

七夕陶灯路のチラシ

七夕陶灯路の様子①

七夕陶灯路の様子②

その他の地域連携活動一覧（教育）（研究）（社会貢献）

①地域を対象とした教育活動

※記載内容は 2022 年 1 月末現在のもの

学部	学科	科目名等	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
国際英語学部	国際英語学科	神戸大学附属中等学校英語科勉強会	教職履修3回生3名	中井弘一		関西一円	オンラインによる研究協議会 中学1年：観点3「主体的に学習に取り組む態度」（報告者：増見 敦） 中学3年：観点2「思考・判断・表現」（報告者：泉 美穂） 参会者によるディスカッションに参加、コメント
文学部	日本語日本文学科	地域課題研究・漢字古典研究・仮名古典研究・書法Ⅵ・作品研究Ⅱ	1～4回生dクラス	寺坂昌三 尾西正成	110名	京都市美術館	京都市美術館で開催された日展京都展を鑑賞し寺坂・尾西が作品解説した。印象的な作品をいくつか挙げてレポート提出を課した。
文学部	歴史学科	京都産業文化論Ⅰ		増渕徹	学生57名	京都市	京都市で発展してきた伝統産業について学び、地域の歴史と産業への理解を深め、関心を高めた。
文学部	歴史学科	京都産業文化論Ⅱ		増渕徹	学生29名	京都市	京都市で生まれ、活動を続ける現代企業群について学び、京都産業の現在について理解を深め、関心を高めた。
文学部	歴史学科	京都の歴史と文化遺産		増渕徹	文学部（歴史学科・歴史遺産学科）および他大学生38名	京都市	京都市域に残る多様な歴史遺産について、講義・見学を通して理解を深め、それらを保存・活用・継承していくための問題意識を深めた。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産調査実習		中久保辰夫	教員・受講生（34名）	滋賀県高島市	高島市教育委員会の協力の下、滋賀県高島市に所在する南畑・下平古墳群の出土遺物整理作業を実施した。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習ⅠⅡ・実習ⅢⅣ		中久保辰夫	受講生（12名）大学院生有志（1名）	兵庫県三木市	三木市史編さん事業に関わる野々池7号墳出土土器の実測作業を実施した。
文学部	歴史遺産学科	キャリアゼミⅢ		後藤敦史 中久保辰夫	3名	滋賀県	8月18日（水）～8月24日（火）の5日間、滋賀県埋蔵文化財センター（滋賀県大津市）で公益財団法人滋賀県文化財保護協会のインターンシップに参加。JR大津京内において高島市の出土品を展示した。https://www.tachibana-u.ac.jp/news/2021/09/-jr29.html
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅰ・Ⅱ		有坂道子	2回生	京都市	江戸時代京都の商家近江屋の古文書解読調査
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅲ・Ⅳ		有坂道子	3回生	京都市	醍醐寺および内海家の古文書解読調査
発達教育学部	児童教育学科	研究入門ゼミ2	1-c 池田ゼミ	池田修	11名	山科区	研究入門ゼミ1で作った「間違い探し」を、大宅児童館の子供たちに解いてもらう活動を行った。二日間にわたって実施。小学校1年生から5年生まで、延べ人数で50人程度の子供たちが活動に参加した。日頃、席につくことのも難しい子供たちも、集中して間違い探しの活動に取り組んでいたと職員の方に聞く。学生たちは、研究入門ゼミ2での課題の、実施計画を書き、児童館に連絡を取り、自主的に活動を行うことができた。ICTの活用もできたと思われる。また、この実施については、報告書をまとめることができた。
発達教育学部	児童教育学科	教育演習Ⅰ	3回生 教育演習ⅠDクラス	佐野仁美	15名	滋賀県草津市	音楽に関心を持つ学生が集まる佐野ゼミの活動の一環として、7月31日に草津市のたちばな大路子ども園でアウトリーチ活動を行った。学生が計画、選曲して、「たちばな大路子ども園なつまつり」で5歳児と保護者を対象に楽器演奏を行い、子どもたちと一緒にダンスをして交流し、楽しんだ。子どもたちの前で表現しコミュニケーションをとる力とともに、企画を立案する力がついたことと思われる。
経済学部	経済学科	基礎演習Ⅳ		平井健文	20名	京都市	2020年に日本遺産に認定された「琵琶湖疏水」を事例に、持続可能な文化遺産観光のあり方を検討した。その過程で、蹴上地区のフィールドワークに加え、京都市上下水道局への対面での聞き取り調査を実施するなどして、地域社会の実際を学生が学ぶ機会を設けた。
経済学部	経済学科	専門演習Ⅱ		平井健文	14名	京都市	京都錦市場商店街振興組合の協力の下で、複数回のワークショップを実施し、地域資源や祭事・行事、錦市場の歴史などについての聞き取りを行った。学生が主体となり、その結果を「フェノロジーカレンダー」（生活季節暦：1枚のカレンダーで季節ごとの自然と文化の関わりを表現するもの）として取りまとめ、成果物を同組合に提供、報告する機会を設けた。
経済学部	経済学科	京都の文化と産業に関わる調査	専門演習Ⅰ、Ⅱ	岡田知弘	16名	京都市	4つのチームに分かれ、京都の文化を支える伝統産業、祭り、食、カフェについて調査を実施し、報告書にとりまとめた。
経済学部	経済学科	京都の観光に関する調査	専門基礎演習	岡田知弘	14名	京都市	京都の観光に関する調査を始めるための基礎的情報を得るために東山区役所でヒアリングのあと現地調査を行った。

学部	学科	科目名等	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
経済学部	経済学科	インターンシップⅡ	課題解決型 b	乾明紀	3名 (京都市での課題解決のみ)	京都市 (京都市総合企画局総合政策室SDGs・市民協働推進担当)	学生が京都市役所のインターン生となり、「市民参加推進計画の若者への浸透」をテーマに事業案を提案した。また、インターン中は、実習先の一員として「市民公募委員サロン」のファシリテーションを行った。
経済学部	経済学科	インターンシップⅡ	課題解決型 b	乾明紀		京都市 (京都信用金庫)	地域で作るまちのワークインフラを目指す京都人材バンクの課題に対して学生が改善提案を行った。 https://www.kyoto-shinkin.co.jp/jinzai/
経済学部	経済学科	インターンシップ準備講座/インターンシップ/インターンシップA（ビジネス）		乾明紀		京都市	地元企業や京都市役所などと連携し、企業訪問やインターンシップ体験などを実施した。
経済学部	経済学科	インターンシップⅠ・クロスオーバー型課題解決プロジェクト（産学公連携科目のコーディネート）		乾明紀		京都市	地元企業などに協力依頼を行い産学公連携科目の次年度開講準備を行った。
経営学部	経営学科	3回生ゼミ共同プロジェクト（伝統産業との連携）		木下達文	14名	京都市	SDGsの概念が広がりつつある中で、フードロスや衣料ロス問題から、少し高くても長く使えるもの、あるいは一生使える商品について考える「エターナルプロジェクト」を開始。本年度は京都の伝統産業とSDGsをテーマに基礎研究とフィールドワークを実施した。
経営学部	経営学科	4回生ゼミ共同プロジェクト（地域企業との連携）		木下達文	15名	京都市	京都で学ぶ学生をターゲットとした「オリジナル御朱印帳とお薦め観光ルートの研究開発」を実施。今年度はモデルコースのフィールドワーク・冊子編集、およびオリジナル御朱印帳を完成させた。
経営学部	経営学科	文化資源デザイン論		木下達文	40名	滋賀県近江八幡市	地域課題を地域文化資源の再評価の側面から考える授業であり、昨年度から教員が連携している近江八幡市を対象としている。今年度も新型コロナの影響はあったが、1日のみのフィールドワークを実施し、地域課題の分析と提案を行った。
経営学部	経営学科	高見株式会社 インタビュー	専門演習Ⅱ <k>	平尾毅	3名	京都市下京区	チームごとに訪問希望先企業を選択し、事前学習として企業研究を行い、ゼミ内事前報告会で訪問目的等を発表した後、学生自ら訪問のアポどりをし、訪問後にゼミ内事後報告会を開催して情報共有を行った。
経営学部	経営学科	株式会社新経営サービス インタビュー	専門演習Ⅱ <k>	平尾毅	3名	京都市下京区 (オンライン)	チームごとに訪問希望先企業を選択し、事前学習として企業研究を行い、ゼミ内事前報告会で訪問目的等を発表した後、学生自ら訪問のアポどりをし、訪問後にゼミ内事後報告会を開催して情報共有を行った。
経営学部	経営学科	ジャペル株式会社 インタビュー	専門演習Ⅱ <k>	平尾毅	3名	愛知県春日井市 (オンライン)	チームごとに訪問希望先企業を選択し、事前学習として企業研究を行い、ゼミ内事前報告会で訪問目的等を発表した後、学生自ら訪問のアポどりをし、訪問後にゼミ内事後報告会を開催して情報共有を行った。
経営学部	経営学科	株式会社たけびし インタビュー	専門演習Ⅱ <k>	平尾毅	3名	京都市右京区	チームごとに訪問希望先企業を選択し、事前学習として企業研究を行い、ゼミ内事前報告会で訪問目的等を発表した後、学生自ら訪問のアポどりをし、訪問後にゼミ内事後報告会を開催して情報共有を行った。
経営学部	経営学科	よーじやグループ 株式会社國枝商店 インタビュー	専門演習Ⅱ <k>	平尾毅	3名	京都市中京区	チームごとに訪問希望先企業を選択し、事前学習として企業研究を行い、ゼミ内事前報告会で訪問目的等を発表した後、学生自ら訪問のアポどりをし、訪問後にゼミ内事後報告会を開催して情報共有を行った。
経営学部	経営学科	ベンチャー起業論		丸山一芳	154名	京都市	ベンチャー起業論の講義において、名古屋市を拠点に全国の農業に関してユニバーサル農業の普及など農業分野の活性化活動をされている林俊輔氏をゲストスピーカーに招聘した。
経営学部	経営学科	ベンチャー起業論		丸山一芳	154名	京都市	ベンチャー起業論の講義において、京都市を拠点に産地を活性化するオープンハウスイベントであるDESIGN WEEK KYOTOを開催している北林功氏をゲストスピーカーに招聘した。
経営学部	経営学科	山科地域にてまちづくり活動を行っている団体・人物へのインタビュー	地域課題研究	大田雅之	19名	京都市	京都市（特に山科区）を中心にまちづくり活動を行っている地域団体・住民をゲストに招き講演を行った。
経営学部	経営学科	地域連携型PBL (伝統産業編)	地域連携型 PBL	大田雅之	9名	京都市山科区	京都市山科区に所在する京焼・清水焼を生産する清水焼団地の活性化を目的として、調査、商品企画を行った。また、団地内の窯元に協力してもらい、試作品の作成を行った。
経営学部	経営学科	地域連携型PBL (文化施設編)	地域連携型 PBL	大田雅之	8名	京都市山科区	京都市東部文化会館と連携し、文化施設のあり方や舞台芸術の見学などの演習を行った。
経営学部	経営学科	山科中央老人福祉センターにてネイルアートの実施		大田雅之	12名 (薬科大学：4名、橘大学：8名)	京都市山科区	京都薬科大学・京都橘大学共同学生団体ME-MEが、山科中央老人福祉センターの依頼で、認知症などの介護予防を目的としたネイルアートを企画し、8月と11月に実施した。
経営学部	経営学科	京都山科区における薬膳喫茶の実施		大田雅之	12名 (薬科大学：4名、橘大学：8名)	京都市山科区	京都薬科大学・京都橘大学共同学生団体ME-MEが、山科地域の活性化を目的に薬膳喫茶を企画し、学内や山科区内の古民家などで実施した。

学部	学科	科目名等	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
経営学部	経営学科	学まちチャレンジプロジェクト		大田雅之	29名	京都市山科区	山科・醍醐地域の活性化を目的としたプロジェクトに助成する制度に採択された学生チーム（全7チーム）の運営サポートを行った。
経営学部	経営学科	山科かるた第2弾の企画支援		大田雅之	4名	京都市山科区	山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会の依頼で、山科かるたの第2弾作成に伴うアイディアと絵札作成の協力を行った。
経営学部	経営学科	「山科"きずな"支援事業」やましなのWA～心のこもった文通プロジェクト～の実施（2年目）		大田雅之	15名	京都市山科区	現代ビジネス学会まちづくり研究会が、「山科"きずな"支援事業」の採択を受けて、コロナ禍の過ごし方の提案として山科地域を対象に絵葉書の普及活動を行った。
経営学部	経営学科	山科駅100周年記念事業山科ガイドツアーの添乗として協力		大田雅之	5名	京都市山科区	三条街道商店街と山科商店会などが中心となって企画する山科ガイドツアーの添乗ボランティアを社会工学系学会まちづくり研究会が行った。また、事前にプロのガイドによる添乗の方法などについての勉強会を行った。
経営学部	経営学科	京都山科ブランディング事業に協力		大田雅之	13名	京都市山科区	山科区が行う京都山科ブランディング事業にて、山科の魅力スポットの聞き取り調査を社会工学系学会まちづくり研究会が協力した。
経営学部	経営学科	与謝野町買い物アンケート調査に協力		大田雅之	12名	与謝野町	与謝野町の地域経済分析に係る消費動向調査（買い物調査）の一環で、社会工学系学会まちづくり研究会がアンケート調査の協力を行った。
経営学部	経営学科	ニュイ・ブランシュ KYOTO 2021に参加		大田雅之	5名	京都市東山区	京都市とアンスティチュ・フランセ関西が主催するアートイベントに社会工学系学会まちづくり研究会が参加した。東山区白川沿いに簡易テーブルを設置し景観を楽しむイベントを実施した。
経営学部	経営学科	七夕陶灯路2021の実施		大田雅之	51名	京都市山科区	社会工学系学会まちづくり研究会主催で、山科の地域資源である京焼・清水焼を活用したあかりイベントを行った。
経営学部	経営学科	第3期山科区基本計画勉強会の実施		大田雅之	17名	京都市山科区	第3期山科区基本計画の策定に伴い、山科区役所の計画担当者を招き、社会工学系学会まちづくり研究会主催で勉強会を行った後にパブリックコメントに参加した。
工学部	情報工学科	プロジェクトマネジメントI	k、l、m	杉浦昌 吉浦裕 平石拓	約130名	京都市山科区	プロジェクトマネジメントの方法の学習の一環として、山科区が解決すべき課題を調査しその解決策を提案するという実習を行った。実習は区と連携して実施し、区役所職員の方々に教材ビデオの提供や学生の発表内容の評価などを行っていただいた。
工学部	建築デザイン学科	専門演習I	J	鈴木あるの	12名	兵庫県洲本市	①洲本市竹原集落の古民家リノベーション計画提案を洲本市主催のまちおこし隊に提出。②有志の学生（鈴木克彦ゼミと合わせて5名）が現地に赴き対象空家の片付け等の作業に参加。
工学部	建築デザイン学科	専門演習Ⅰ・Ⅱ	F	土井脩史	12名	京都市上京区	京都市上京区にある堀川団地において、DIYリノベーションを行った。2021年11月に合計5日間かけてフローリングと間仕切りの施工を行った。
工学部	建築デザイン学科	建築インテリア設計演習II	a、b、c	半海宏一 鈴木あるの 伊藤健一	87名	京都市上京区	「京都府立植物園100周年未来構想」に鑑み園内レストスペース提案を学生が作成し、園長他管理責任者に向けて発表した。
工学部	建築デザイン学科	専門演習Ⅰ	k	鈴木克彦	11名	兵庫県洲本市	①洲本市竹原集落の古民家リノベーションについて洲本市との合同会議に参加した。②有志の学生が現地に赴き対象空家の片付け等の作業に参加。
工学部	建築デザイン学科	専門演習Ⅲ	h	鈴木克彦	13名	兵庫県洲本市	洲本市竹原集落の古民家リノベーションについて、改修提案を行った。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅲ		松本賢哉 小西奈美 奥野信之	4回生 10名	大津市	志賀ブロック老人クラブ連絡協議会主催ニュースポーツ交流会に参加、活動サポートを行った。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ プライマリケア実習Ⅲ		松本賢哉 征矢野あや子 長尾匡子 竹中友希 桐明佑樹	1回生 95名 4回生 4名	大津市石山体育館 大津市瀬田体育館 大津市和邇体育館	大津市老人クラブ連合会との共催で「新体力測定」を、3回に分けて行った。1回生は参加者とペアになり、血圧測定など高齢者の健康状態などについて評価した後、体力測定を行った。4回生は骨密度測定や1回生のフォローを行った。参加者は約100名であった。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ 生涯健やか看護学実習Ⅱ-1		征矢野あや子 長尾匡子 竹中友希 時岡辰汰郎	1回生 99名 2回生 31名 4回生 6名	本学清優館	生涯健やか看護学実習Ⅰとして、山科区老人クラブ連合会との共催で「体力測定会」を、3回に分けて本学で行った。1回生は体力測定の準備を行った後、参加者とペアになり、体力測定を行った。4回生はTAとして下回生の指導助言を行った。生涯健やか看護学実習Ⅱ-1として、コロナ禍により臨地実習が叶わない一部の学生が、体力測定会に参加した高齢者の健康状態のアセスメントとコミュニケーション技能の獲得に努めた。参加者は全118名であった。
看護学部	看護学科	京都橘大学淳芳会ホームカミングデイ 健康相談会		黒瀧安紀子 松本賢哉 清水彩 長尾匡子 下田優子 定森千賀 征矢野あや子 小西奈美 岩﨑真子 時岡辰汰郎 上野まき子	1回生 4名 2回生 7名 4回生 5名	清優館ラウンジ	ラウンジにて、身長、体重、腹囲、骨密度、脳年齢、血管年齢の測定を行い、学生はその補助を行った。4回生は運営と測定補助を行った。教員は、測定結果を基に、健康相談を実施した。

学部	学科	科目名等	クラス	担当	受講者数	対象地域 または実施場所	教育活動の内容（概要）
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅳ		黒瀧安紀子 下田優子	4回生 2名	大宅中学校体育館	コロナ禍に伴う臨地実習での事業参加機会の減少を補うために、山科区健康長寿推進課主催の中学生向け「喫煙防止教育（防煙セミナー）」に参加した。たばこや薬物の依存症、喫煙に至る仕組み、受動喫煙問題などの講義を約200名の大宅中学校の生徒と共に受講し、対象者に合わせた健康教育の企画・運営の重要性の理解を深めることができた。
看護学部	看護学科	プライマリケア実習Ⅳ		黒瀧安紀子 下田優子	4回生 3名	洛東高校実習室	山科区はぐくみ室主催の洛東高校3年生（34名）向けの「思春期教育」に参加した。高校生の妊娠とライフプランについての講義の受講と、沐浴実習での高校生への指導助手を務めた。子どもの命の大切さを高校生と共有することで、思春期における性に対する理解と対象者の目線に合わせた健康教育の実施、伝える技術の重要性を学ぶことができた。
健康 科学部	作業療法 学科	地域包括ケアシステム 演習	3回生	小川敬之 原田瞬 川﨑一平 永井邦明	34名	山科区山階学区 西野学区 (株)東レ建設トレファーム (京都府相楽郡)	演習として、山科団地エリアを対象とした健康イベントに参加し、学生が企画した健康体操プログラムを実践、地域住民との世代間交流を実践した。また東レが行っている地域支援活動であるトレファームを遠隔見学し、活動の効果や可能性について討議した。演習を通し、地域連携、支援のあり方について学習した。
健康 科学部	救急救命 学科	令和3年度京都橘大学 健康科学部 救急救命学科学生学会	全学生	救急救命 学科	210名 (現地 +Web)	京都橘大学	学会参加学生による学会発表報告を行った。救急救命士に精通している講師陣3名を招聘し、教育講演・特別講演を聴講した。
健康 科学部	心理学科	イオンタウン山科椥辻 における来店者調査		永野光朗	11名	京都市山科区	心理学科3回生科目「マーケティング調査演習」の授業の一環として、イオンタウン山科椥辻への来店者の意識や実態を明らかにするための調査を実施した。計133名分のデータを収集した。1月に本学において報告会を開催し分析結果をまとめた報告書をイオンタウン株式会社に提出する予定である。

②地域を対象とした研究活動

※記載内容は 2022 年 1 月末現在のもの

学部	学科	研究課題名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
国際英語学部	国際英語学科	地域コミュニティ・京都橘大学の連携活動に対する認識調査：大学教員にフォーカスして認識調査	樋口ゆかり	京都橘大学	本研究の研究対象は、京都市山科区の地域コミュニティと連携活動している京都橘大学の教員であった。教員が地域との連携活動にどのような認識を持っているかを明らかにするために、アンケート調査が実施された。調査結果は、今後さらに高齢化が進む山科区と同地域に所在する京都橘大学の地域連携活動において、地域のニーズと比較的合致しやすい看護学部と発達教育学部がリーダーシップをとっていく可能性が高いこと、連携活動終了後に反省会を１番多く実施した看護学部と地域コミュニティの間には、エンベッディドな関係が築かれつつあること、その関係は、京都橘大学のサバイブ率を上昇させることに大きく貢献する可能性があることなどを、示唆していた。
国際英語学部	国際英語学科	地域コミュニティ・京都橘大学の連携活動に対する認識調査：一般社団法人 京都中小企業家同友会にフォーカスして認識調査	樋口ゆかり	京都市山科区	本研究の研究対象は、京都市山科区の一般社団法人京都中小企業家同友会の会員であった。中小企業の事業主が、大学との連携活動にどのような認識を持っているか、また、彼らがSDGsに対してどのような認識を持っているかを明らかにするために、アンケート調査が実施された。本研究は、「回答者である中小企業の事業主は、少子高齢化による問題の解決に向けて、海外からの人の流入に期待している」ということ、「彼らが、大学研究者との交流に対して、ポジティブなイメージを持ち、心理的に準備ができている」ということ、「彼らのうちの３割弱が、SDGsウォッシュに陥る可能性がある」ということを、明らかにした。

文学部	歴史学科	京都の世界遺産の研究	増渕徹	京都府	京都の世界遺産の来歴・現状などについて研究を実施 (2022年３月発表予定)
文学部	歴史学科	特定共同研究「賀茂別雷神社文書の調査・研究」	野田泰三	賀茂別雷神社（上賀茂神社）ならびに京都周辺地域	東京大学史料編纂所の特定共同研究（代表：金子拓）。賀茂別雷神社文書の分析を通し、同社の神事・祭祀、賀茂六郷の支配構造、京都周辺地域の社会・政治構造を解明することを目的とする。
文学部	歴史学科	京都史（戦国織豊期）の概説書の執筆	尾下成敏	京都府など	馬部隆弘氏、谷徹也氏との共著『京都の中世史第６巻　戦国乱世の都』を執筆し、吉川弘文館から刊行した。本書において尾下は、洛中洛外の都市史や織豊期の京都に関わる政治史、戦国期の文芸史を担当した。
文学部	歴史学科	京都の蹴鞠史の研究	尾下成敏	京都府など	16世紀の京都の蹴鞠の会について検討した、論文「戦国織豊期飛鳥井家の破子鞠の会について」を執筆し、『藝能史研究』234号において公表した。
文学部	歴史遺産学科	湖西地域の首長系譜分析	中久保辰夫	高島市	高島市に所在する古墳群（南畑古墳群、拝戸古墳群）の出土品整理作業を行った。
文学部	歴史遺産学科	播磨東部の首長系譜分析	中久保辰夫	三木市	三木市に所在する野々池７号墳出土品の整理作業と築造時期の研究を実施した。

発達教育学部	児童教育学科	滋賀県草津市、栗東市における公立幼稚園の歴史的資料調査	青木美智子	草津市 栗東市	1954年当時の滋賀県草津・栗東地域における公立幼稚園の保育活動の調査を行った。草津川、葉山川流域、湖岸地域、丘陵地域とそれぞれの地形的特色、神社仏閣などとの繋がりを保育に活かして幼稚園教育を展開していたことがわかった。成果は近く論文として発表の予定。
発達教育学部	児童教育学科	絵本を題材にした表現の保育の共同研究	佐野仁美	草津市	JSPS科研費課題番号21K02478の研究の一部として、たちばな大路子ども園の保育者との共同研究を行った。２～５歳児の各クラスにて、発達段階に応じた絵本とそれを用いた保育の内容を提案し、2021年11月に実践した。当日は参観して、保育者、園長、副園長とともに振り返りを行った。今回はオノマトペを活用した身体表現から、和太鼓を用いたリズム表現へと展開していく内容であり、実践結果をまとめて学会等で発表する予定である。
発達教育学部	児童教育学科	小学校高学年における旋律づくりの共同研究	佐野仁美	神戸市	JSPS科研費課題番号21K02478の研究の一部として、神戸市立雲中小学校音楽専科教員と小学校高学年における旋律づくりの共同研究を行う。教材を開発して教育方法とともに2022年１月に提示し、２月、３月に４～６年生を対象にした実践を予定している。当日は子どもたちの様子を参観・記録し、実践の結果を踏まえ、必要に応じて教材や教育方法に修正を加えていく予定である。

経済学部	経済学科	コロナ禍と地域再生に関する調査研究・政策提言活動（編著『コロナと地域経済』の出版）	岡田知弘	全国各地	地域経済学の視点から、コロナ禍の地域的不均等性と政策課題を明らかにするとともに、地域再生の課題を政策提起した。また、日本地域経済学会で基調報告を行った。
経済学部	経済学科	東日本大震災10年　陸前高田フォーラムの開催と報告	岡田知弘	岩手県陸前高田市	「生存の東北史」の共同研究者７名で、12月に、陸前高田市において地元の報告者を含めて、シンポジウムを開催し、市役所職員や他分野の研究者と意見を交流した。
経済学部	経済学科	高等学校の探究学習に関する研究（科研費「わかる」と「できる」が拡大し、キャリアが展望できる「チーム探究」に関する研究）	乾明紀	京都府	高校の探究活動は地域との協働による学校改革の側面をもつ。地域や企業などとも連携して行われる高校の探究学習における高校生の変化を研究している。

経営学部	経営学科	「イノベーション普及プロセスとオープンファクトリー -DESIGN WEEK KYOTO- の事例分析」、日本創造学会、第43回研究大会、久留米大学、『大会論文集』、pp.102-105.	丸山一芳	京都市 宇治市 亀岡市 京丹後市 与謝野町	ものづくり産地を活性化するオープンハウスイベントであるDESIGN WEEK KYOTOとDESIGN WEEK TANGOについてイノベーション普及プロセスや知識創造の視点から分析した。
経営学部	経営学科	レジリエンスプロジェクト「高齢者の居場所づくりの研究」	大田雅之	山科区 伏見区醍醐地域	山科・醍醐地域における高齢者の居場所について調査を行った。本年度は、国、市、区における行政計画の整理と、高齢者の居場所運営団体におけるコロナ禍の運営についてのヒアリングを行った。
経営学部	経営学科	【「学まち連携大学」促進事業】卒業生インタビューの実施	大田雅之	京都市山科区	「学まち連携大学」促進事業の一環として、地域連携活動を学生時代に行ってきた卒業生にインタビューを行い、地域活動に参加する意義について調査を行った。

工学部	建築デザイン学科	滋賀県日野町のまちなみ保存における外国人の役割	鈴木あるの	滋賀県日野町	まちなみ保存会事務局長への聞き取り調査。過去の調査における成果を今年度UIA（国際建築家協会）2021RIO大会（英語）および住総研（日本語）にて発表した。

学部	学科	研究課題名	担当	対象地域 または実施場所	研究の内容や成果
工学部	建築デザイン学科	分譲マンションの管理不全の防止策に関する調査	鈴木克彦	京都市	京都市内の分譲マンションの管理実態を調査し、その成果を京都市が主催するマンション管理セミナーやNPO団体の記念シンポ等において発表した。
看護学部	看護学科	団地コミュニティーレジリエンス向上のプログラムモデル開発の為の予備的研究 -団地住民のソーシャルキャピタルがレジリエンスに影響する要因-	松本賢哉 黒瀧安紀子 川村晃右 河原宣子 野島敬祐 十倉絵美	伏見区・山科区	団地コミュニティーレジリエンス向上のプログラムモデルを開発するための予備的研究として、団地住民のソーシャルキャピタルとストレス対処能力が個人のレジリエンスにどのように関連しているのかを明らかにし、プログラム開発の示唆を得た。
看護学部	看護学科	地域在住高齢者の起立能力に関する調査	征矢野あや子 長尾匡子 松本賢哉 竹中友希 桐明佑樹	山科区	地域在住高齢者の起立能力の把握を目的として、山科区老人クラブ連合の会員を対象に、椅子からの起立能力と生活様式や習慣について調査を行った。また、学部4回生の協力を得て、起立能力の維持のための生活習慣や運動方法の健康教育を行った。起立能力と生活様式などとの関連を検討する予定である。
健康 科学部	心理学科	性犯罪再犯離脱集団療法プログラムにおける変化への動機付けに関する集団力動的アプローチの成果	ジェイムス朋子	滋賀県	性犯罪者の再犯防止プログラムの成果向上を図るため、前年度までに刑務所内で実施した試行的プログラムのデータの分析を行った。
健康 科学部	作業療法学科	作業療法士による特別支援学校（知的障害）でのコンサルテーションに関する研究	原田瞬	大阪府堺市	作業療法士による地域支援の1つである特別支援学校でのコンサルテーションが、対象児童生徒、教員に及ぼす効果を明らかにすることを目的に効果検証研究を実施している。特別支援学校教諭の作業療法士に対する相談内容に関する分析が日本発達系作業療法学会誌に掲載された。
健康 科学部	作業療法学科	地域活性化を目的とした世代間交流のあり方とその効果に関する研究	原田瞬 小川敬之 川﨑一平 永井邦明	山科区山科団地エリア	山科団地エリアの高齢者を対象に、世代間交流の状況や望むものについて調査した。昨年度の調査結果を第55回日本作業療法学会にて報告した。また、リモート型の世代間交流の取り組みについて日本世代間交流学会誌に掲載された。
健康 科学部	作業療法学科	「パーキンソン病の日常生活における困難と工夫に関するアンケート」	高畑進一	大阪府 兵庫県 奈良県	大阪府作業療法士会の会員で構成する「パーキンソンシンドローム研究会」と協力し、Webベースで行える「パーキンソン病の日常生活における困難と工夫に関するアンケート」を実施した。回答者に結果をフィードバックし、2月からインタビュー調査に進む予定である。
健康 科学部	救急救命学科	災害図上訓練DIG(風水害版)	関根和弘	京都市山科区	身体能力特性データを中心とした地域住民の災害時の支援方法の考案を行った。
健康 科学部	臨床検査学科	京都府内の河川における基質特異性拡張型βラクタマーゼ産生大腸菌の検出	中村竜也 藤原麻有 東優太(学生) 山西諒(学生)	京都府下	京都府下の河川から薬剤耐性菌の分離調査を行い、現在ヒトで問題となっている耐性菌の検出を確認した。研究の成果は4年生の東優太が筆頭で学会発表した。
健康 科学部	臨床検査学科	山科区近隣地域の河川および湖沼における水質の解析	岡田光貴 竹下仁 米田孝司 和久一哉(学生) 吉田純(学生)	山科区および その近隣地域	2021年度は桂川、高瀬川、高野川、鴨川、琵琶湖疏水、山科川、宇治川、山科音羽川の8河川、10ヶ所で水質調査を行った。行政にて実施されている検査項目だけでなく、特殊検査項目についても測定し、独自の結果が得られている。研究の成果は、3/6(日)に開催の第31回日本臨床化学会近畿支部総会にて発表予定である。

③地域を対象とした社会貢献活動

※記載内容は 2022 年 1 月末現在のもの

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
国際英語学部	国際英語学科	職業人講話ガイダンス	樋口ゆかり	滋賀県大津市	なし	大津高校から講師依頼を受け「英語を武器にする仕事：海外で暮らす。すると、母国日本はどう見えるか？」というテーマで、高校１年生22名に特別講義を行った。
国際英語学部	国際英語学科	寝屋川市立中木田中学校 校内教員研修会	中井弘一	寝屋川市立 中木田中学校 教員40名	なし	ディベート教育推進のための教員向け研修会において、指導助言・講義を行った。
国際英語学部	国際英語学科	寝屋川市立第九中学校 地区小学校・中学校 校内教員研修会	中井弘一	寝屋川市立第九中学校 寝屋川市立啓明小学校 寝屋川市立成美小学校 教員90名	なし	ディベート発想の授業意識を学び教員の授業力の向上を図る講義ワークショップを行った。
国際英語学部	国際英語学科	寝屋川市立啓明小学校 校内教員研修会	中井弘一	寝屋川市立 啓明小学校 教員30名	なし	「寝屋川市では家庭ごみの回収を有料にすべき」の論題で教員のディベートを聞いた上で、指導助言及び授業でのディベートの活用について講義を行った。
国際英語学部	国際英語学科	寝屋川市立成美小学校 校内教員研修会	中井弘一	寝屋川市立 成美小学校 教員20名	なし	「寝屋川市では家庭ごみの回収を有料にすべき」の論題で教員のディベートを聞いた上で、指導助言及び授業でのディベートの活用について講義を行った。
国際英語学部	国際英語学科	寝屋川市立第九中学校 校内教員研修会	中井弘一	寝屋川市立 第九中学校 教員40名	なし	「寝屋川市では使い捨てプラスチック容器の使用をすべき」の論題で教員のディベートを聞いた上で、指導助言及び授業でのディベートの活用について講義を行った。
国際英語学部	国際英語学科	兵庫県立加古川西高等学校　特別講義	中井弘一	兵庫県加古川地域	なし	加古川西高等学校から講師依頼を受け「思考力の育成ーディベートの発想を通して」というテーマでResolved: The Japanese Government should relocate the capital functions out of Tokyo.をもとに２年生45名の生徒に特別講義を行った。
国際英語学部	国際英語学科	寝屋川市立木屋小学校 校内教員研修会	中井弘一	寝屋川市立 木屋小学校 教員30名	なし	ディベート発想の授業意識を学び教員の授業力の向上を図る講義ワークショップを行った。
国際英語学部	国際英語学科	第38回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト京都府予選大会	中井弘一	京都府	なし	京都府立木津高等学校多目的ホールで、全国商業高等学校英語スピーチコンテスト京都府代表を決めるコンテストでチーフジャッジをつとめ、コンテスト後、効果的なスピーチについて特別講義を行った。
国際英語学部	国際英語学科	兵庫県立尼崎小田高等学校 研究授業指導助言	中井弘一	兵庫県	10名	尼崎小田高校の英語科教員の研究授業を参観し、指導助言と授業のあり方について特別講演を行った。本学教職履修学生も参加した。
国際英語学部	国際英語学科	第38回全国商業高等学校英語スピーチコンテスト大阪府予選大会	中井弘一	大阪府	なし	大阪市立南高等学校多目的ホールで、全国商業高等学校英語スピーチコンテスト大阪府代表を決めるコンテストでチーフジャッジをつとめ、効果的なスピーチについてコメントした。
国際英語学部	国際英語学科	令和三年度新規採用 ２年目教職員研修 寝屋川市総合教育研修センター	中井弘一	寝屋川市 小中学校教員	なし	寝屋川市教育委員会から寝屋川地域の小・中学校での授業にディベートを取り入れるための講習講師の依頼を受け、寝屋川市小中教員２７名に「ディベートによる思考力の育成」というテーマで参加型の講習を行った。
国際英語学部	国際英語学科	滋賀県立守山中学校・高等学校教員研修 (FD) 「学びの変革」発展プロジェクトに係る講演	中井弘一	滋賀県立 守山中学校 高等学校 教員50名	なし	滋賀県立守山中学校・高等学校教員に「これからの教育評価・学習評価―人を育てる評価をめざして―」で研修講師を務めた。
国際英語学部	国際英語学科	令和三年度新規採 ２年目教職員研修 寝屋川市総合教育研修センター	中井弘一	寝屋川市 小中学校教員	なし	寝屋川市新規採用２年目教職員のディベート観戦後、コメント指導を行う予定。
国際英語学部	国際英語学科	兵庫県立加古川西高等学校　特別講義	中井弘一	兵庫県加古川地域	なし	Resolved:The Japanese Government should relocate the capital functions out of Tokyo.の英語ディベートを参観の上、生徒にコメント、特別講義を行う予定。
国際英語学部	国際英語学科	上宮高等学校 Recitation 審査	中井弘一	大阪府	なし	上宮高等学校２年生のレシテーションスピーチのジャッジを行う予定。
国際英語学部	国際英語学科	京都橘中学校 Recitation & Presentation Contest 審査員	中井弘一	京都橘中学校	なし	中学１年　レシテーション “The Restaurant with Many Orders” 中学２年・３年　プレゼンテーション “The news I am most interested in and what I have learned from it.” ジャッジ・コメント後特別講義を行う予定。
国際英語学部	国際英語学科	滋賀県高等学校等教育研究会英語教育研究部会 第27回フレンドシップカップ・レシテーションコンテストの審査	中井弘一	滋賀県立 守山高等学校	なし	第27回フレンドシップカップ・レシテーションコンテストの審査及びコメントを行う予定。
文学部	日本語日本文学科	OSJ橘によるお習字教室準備(コロナにより不開講)	寺坂昌三 尾西正成	山科区	8名	継続的に行っているお習字教室を企画準備したが、コロナ禍で開けなかった。
文学部	日本語日本文学科	OSJ橘による書作品展示会(アートロードなぎつじ)	寺坂昌三 尾西正成	山科区	8名	アートロードなぎつじにて３月30日～４月25日まで書道作品を展示予定。地域の皆さんに書作品を鑑賞、本学の書道の活動を広報すると共に地域の方々に書芸術のすばらしさを味わったいただく機会を提供。
文学部	歴史学科	歴史文化ゼミナール (オンライン講演会)	増渕徹	京都府など	なし	「貴族社会の贈り物」というタイトルで、講演を行った。京都府のほか他府県から参加者を得た。
文学部	歴史学科	歴史文化ゼミナール (オンライン講演会)	野田泰三	京都府など	なし	「明智光秀に仕えた洛西土豪の中近世」というタイトルで、講演を行った。京都府のほか他府県から参加者を得た。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
文学部	歴史学科	歴史文化ゼミナール	増渕徹	京都市 (仁和寺)	あり	歴史文化ゼミナールでの現地見学（仁和寺）において、参加者の誘導・案内を担当した。また歴史学科古代史ゼミ３回生３名もこれに協力した。
文学部	歴史学科	神社史料の編纂	野田泰三	京都市 (賀茂別雷神社)	なし	賀茂別雷神社史料編纂委員会の委員として、賀茂別雷神社史料の刊行事業に協力した。
文学部	歴史学科	文化財活用への協力	野田泰三	京都市 (仁和寺)	なし	仁和寺御所跡保存活用計画策定委員会の委員として活用計画策定に協力した。
文学部	歴史学科	自治体史編纂	野田泰三	京田辺市	なし	京田辺市史編さん専門員として市史刊行事業に協力した。
文学部	歴史学科	自治体史編纂	野田泰三	大阪府摂津市	なし	摂津市史編纂委員会の委員として市史刊行事業に協力した。
文学部	歴史学科	自治体史編纂	野田泰三	奈良県五條市	なし	五條市史編集委員会古代中世部会員として市史刊行事業に協力した。
文学部	歴史学科	講演会	増渕徹	京都市	なし	「大宅廃寺跡と山科の歴史」というタイトルで、2022年2月に講演の予定。これは、京都府立京都学・歴彩館の共同研究（「文化資源を発掘する･洛東編」）の一環である。
文学部	歴史学科	講演会	尾下成敏	滋賀県甲賀市	なし	「天下人と東海道」というタイトルで講演を行った。豊臣秀吉・徳川家康と東海道・水口との関わりを取り上げたものである。
文学部	歴史学科	講演会	尾下成敏	京都市	なし	「蹴鞠を楽しんだかもしれない武士たち」というタイトルで講演を行った。これは16世紀京都における蹴鞠の会を取り上げ、そのなかでの武士たちの動向にふれたものである。
文学部	歴史学科	講演会	尾下成敏	八幡市	なし	「織田家と公家文化」というタイトルで講演を行った。これは、織田信秀・信長父子の公家文化受容を取り上げたものである。
文学部	歴史遺産学科	子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業	有坂道子	京都府	なし	京都府教育委員会が実施する京都府下の小中高校生対象の模擬授業。1月24日に精華町立山田荘小学校６年生60名を対象に行った。
経済学部	経済学科	NPO法人北海道遺産協議会 「北海道ヘリテージラボ」の企画運営	平井健文	北海道赤平市 兵庫県朝来市	未定	北海道遺産協議会が実施するオンラインセミナーのコーディネーターを務める。研究対象地域の関係者を招聘して報告をしていただき、これまでの研究成果を踏まえて議論を進めるため、個人研究のアウトリーチ活動としての側面も持っている。2022年1月末開催。
経済学部	経済学科	錦市場行動変容研究会のコーディネート	平井健文 大田雅之	京都市 錦市場商店街	14名	京都錦市場商店街振興組合が主催する研究会のコーディネーターを務めた。2年目となる今年度は、地域資源の発掘と伝達による質の高い観光経験の提供をテーマに、学生も参加してワークショップを実施した。その結果として、季節ごとの食文化や祭礼・行事などを1枚のカレンダーにまとめ（フェノロジーカレンダー）、同組合に提供した（①教育欄にも記載）。
経済学部	経済学科	丸亀市産業振興推進会議	岡田知弘	香川県丸亀市	なし	丸亀市産業振興条例によって設置された市産業振興推進会議会長として、同市の産業振興に関わる建議をまとめたり、産業振興基本計画の進捗管理の議論を行った。
経済学部	経済学科	総務省自治大学校講師	岡田知弘	全国の都道府県、市町村	なし	総務省の自治大学校において、「地域産業政策」をテーマにした研修講師を行った。
経済学部	経済学科	砺波散村地域研究所運営協議員	岡田知弘	富山県砺波市	なし	砺波市市立散村地域研究所の運営活動に従事した。
経済学部	経済学科	京都市『東山の未来』区民会議	岡田知弘	京都市東山区	なし	東山区の基本計画を見直す区民会議の議長を務めた。
経済学部	経済学科	日本弁護士連合会貧困問題対策本部との連携	岡田知弘	全国各地	なし	日弁連貧困問題対策本部による全国自治体調査へのアドバイス、人権大会、各種シンポジウムでの報告、コメントを行った。
経済学部	経済学科	高知県高知市議会	岡田知弘	高知市	なし	中小企業振興基本条例制定に関わるレクチャと助言を行った。
経済学部	経済学科	埼玉県中小企業団体中央会	岡田知弘	埼玉県	なし	官公需適格組合制度の解説と地域経済振興に関わる可能性を講演し、同制度導入についてアドバイスをした。
経済学部	経済学科	京都中小企業家同友会	岡田知弘	京都府	なし	京都府内におけるコロナ禍での地域課題と今後の中小企業者運動のありかたについて講演し、助言を行った。
経済学部	経済学科	長岡京市（仮称）中小企業振興条例検討会	岡田知弘	京都府長岡京市	なし	長岡京市の中小企業振興条例検討会の会長を務める。
経済学部	経済学科	京都府中小企業応援条例改正検討委員会委員	岡田知弘	京都府	なし	京都府の中小企業応援条例改正検討委員会の委員長を務めた。
経済学部	経済学科	近畿農政局技術評価委委員	岡田知弘	近畿一円	なし	農林省の土地改良事業の事前、事後評価に専門委員として参画した。
経済学部	経済学科	西陣機業調査の分析	岡田知弘 小山大介	京都市内	なし	西陣織工業組合が実施した西陣機業調査の分析を行った。
経済学部	経済学科	与謝野町地域経済構造調査	岡田知弘 小山大介	京都府与謝野町	20人	与謝野町の地域経済構造調査を実施。消費動向調査に学生が参加。
経済学部	経済学科	京都市市民参加推進フォーラム（審議会）	乾明紀	京都市	3名	同フォーラムの副座長を務めている。京都市民の市政とまちづくりへの参加を推進するために、若者への裾野拡大のための取り組みと市民参加度合を計る指標の検討を行っている。また、学生3名を担当部局のインターンシップ生とし、市民公募委員サロンのファシリテーションを担ってもらった。
経済学部	経済学科	京都府高等学校商業教育研究会 冬季研修会　講師	乾明紀	京都市	なし	地域との協働による探究活動を推進する商業高校教員に対し、探究活動の開発や進め方などについての要点を解説した。
経済学部	経済学科	令和３年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 全国サミットオンライン	乾明紀	全国	なし	地域との協働による高等学校教育改革推進事業に採択された高校の成果発表会に有識者（書面審査協力者であった）として参加し、コメントなどを行った。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
経済学部	経済学科	WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業 令和３（2021）年度府立高校共通履修科目「スマートＡＰ」の設計助言および講師	乾明紀	京都府 （鳥羽高校・ 福知山高校）	なし	WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の一環として行われる探究学習型共通履修科目のカリキュラム設計に際し、助言を行い、加えて講師・ファシリテーターを２日間担当した。
経済学部	経済学科	京都府立鳥羽高校学校運営協議会委員長	乾明紀	京都府	なし	「地域とともにある学校づくり」を進める法律（地教行法第47条の5）に基づき設置される学校運営協議会の委員長として学校運営に関わった。
経済学部	経済学科	京都府立峰山高校いさなご探究中間報告会	乾明紀	京丹後市	なし	地域との連携によって行われる探究活動の中間報告に参加し、助言などを行った。
経済学部	経済学科	山科区スマートフォンアプリ運営協議会	阪本崇	京都市山科区	なし	山科区が開発し、区民向けに配信しているスマートフォンアプリ「やましなプラス＋」の運営方針について協議する「山科区スマートフォンアプリ運営協議会」に副会長として参加した。協議会そのものは諸般の事情で書面での開催となった。
経済学部	経済学科	山科区民まちづくり会議	阪本崇	京都市山科区	３名	「第２期山科区基本計画」に基づく取組の実施計画及び進捗評価や、「心豊かな人と緑の“きずな”のまち山科」の実現に向けた山科区の今後のまちづくりについて、区民・地域団体・NPO団体・事業者・大学・行政等を背景にもつ委員が参加する「山科区民まちづくり会議」に座長として参加し、会議のコーディネートを行った。
経済学部	経済学科	三田市文化ビジョン検討委員会	阪本崇	兵庫県三田市	なし	兵庫県三田市では今後10年間の文化芸術施策の基本的な方向性を示す「（仮称）三田市文化芸術ビジョン」を策定する予定であるが、その作成に向けて市民アンケートの分析や今後の文化施策の検討のための委員会に出席し、意見を述べた。
経済学部	経済学科	アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会	阪本崇	滋賀県草津市	なし	産学公民の連携によるまちづくりの展開を施策として掲げるアーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）の前年度の事業報告、および次年度実施事業案について、専門的観点から意見を述べる。
経済学部	経済学科	「ルシオール・フェスティバル」の運営	木下達文	滋賀県守山市	16名	守山市による音楽によるまちづくり支援を行う。今年度も新型コロナの影響はあったものの、規模を縮小して実施。立命館守山会場を中心に学生も事前研修および本番でのイベントマネジメントを体験的に学ぶ機会となった。
経済学部	経済学科	守山市文化振興アクションプラン策定協力	木下達文	滋賀県守山市	なし	来年度に向けた第２期目の守山市文化振興アクションプランの策定について継続的な協力を行う。副委員長として参加。
経済学部	経済学科	「やましな山科駅前陶灯路」の運営	木下達文 大田雅之	京都市山科区	45名	駅前諸団体および大学が共同して行うイベント。今年度も新型コロナの関係でイベント事業が中止となったため、次年度に向けた情報収集や連携維持に努めた。
経済学部	経済学科	山科検定の運営協力	木下達文	山科区	なし	山科区が実施するご当地検定である。今年度も新型コロナの関係で検定事業が中止となったが、新テキストの完成や若年層向けの計画について継続検討を行った。
経済学部	経済学科	草津市文化振興基本計画重点プロジェクト策定協力	木下達文	滋賀県草津市	なし	草津市が昨年度作成した文化振興基本計画に基づく重点プロジェクトである。今年度も新型コロナの関係でイベント事業が中止となったが、次年度に向けた検討を行った。委員長として参加。
経済学部	経済学科	安土城再建プロジェクト協力	木下達文	近江八幡市	なし	近江八幡市安土町において取り組まれている安土城再建プロジェクトを実施する「安土城再建を夢見る会」の運営サポートを中心に行う。顧問として参加。滋賀県立安土城考古博物館運営懇談会委員。
経済学部	経済学科	安土城考古博物館展示リニューアル事業協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県県立安土城考古博物館の老朽化にともない、展示の全面リニューアル事業の協力を行う。過去に博物館展示論で学生による事業評価協力を行うなどしており、その反映をしている。今年度は基本計画の詰めを行った。
経済学部	経済学科	特別史跡安土城跡整備基本計画策定協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県が本年度より取り組んでいる特別史跡安土城跡整備基本計画策定検討会議に委員として参加。敷地所有者との連携がうまく進んだことにより、未発掘の地域が多く残る安土山の今後の発掘の方向性を検討した。
経済学部	経済学科	デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県が本年度より取り組んでいるデジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画検討懇話会に委員として参加。資料不足など多くの問題で再建が難しい安土城を、デジタルで復元していくという事業への協力。本年度は全体的な方向性を検討した。
経済学部	経済学科	滋賀県内における博学連携事業への協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県の文化政策（主に博学連携事業）を担う中間支援組織「滋賀次世代文化芸術センター」の事業協力を行う。主に文化施設と学校をつなぐ「連携授業」の在り方について様々な言及や広報事業の協力を行う。理事として参加。
経済学部	経済学科	客引き行為等対策審議会への協力	木下達文	京都市	なし	京都市の繁華街における客引き行為を禁止する条例があるが、いまだに客引きが絶えない現状を検討する審議会の委員として参加。現状分析並びに今後の対策について検討を行った。
経済学部	経済学科	オープンファクトリー研究会	丸山一芳	経済産業省 近畿経済産業局 調査事業	なし	近畿地域ならびに福井県における伝統産地において中小企業や工房が連携して実施する地域一体型オープンファクトリーについて、その効果やキーアクターの特徴、運営のコツなどについて議論する研究会において委員（座長）として参加した。
経済学部	経済学科	オープンファクトリーの持続可能な在り方研究会	丸山一芳	経済産業省 近畿経済産業局 調査事業	なし	近畿地域ならびに福井県における伝統産地において中小企業や工房が連携して実施する地域一体型オープンファクトリーについて、今後も持続していくための方策について議論する研究会において委員（座長）として参加した。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
経済学部	経済学科	大阪のものづくりの未来を考えるシンポジウム	丸山一芳	大正・港ものづくり事業実行委員会 / 大阪ものづくり企業認定職業訓練協会	なし	「まちづくり・ひとづくり・ものづくり」についての問題意識・課題について、大阪市港区筋原章博区長、大正区古川吉隆区長、株式会社木幡計器製作所木幡巌代表取締役ほかと議論した。
経済学部	経済学科	関西オープンファクトリーフォーラム	丸山一芳	経済産業省 近畿経済産業局, 中部経済産業局, 九州経済産業局	なし	「地域を越えて伝播する」というテーマで近畿、中部、九州という各地のオープンファンクトリー主催者が集まるフォーラムにおいて、「オープンファクトリーによる産地革新の越境と知識移転」と題した基調講演を担当した。
経済学部	経済学科	「徳島の魅力、徳島で働く」の協力	大田雅之	京都市山科区	12名 (薬科大学：4名、橘大学：8名)	徳島大学のCOC+事業の一環として開講した授業にて、徳島大学と本学の共同企画として、四国出身の本学学生からみた四国で働くための必要な条件についてワークショップを行った。
経済学部	経済学科	たちばなサイエンスデーおしえて！もてなすくんの実施	大田雅之	京都市山科区	5名	本学が、主催する「たちばなサイエンスデー」にて、小学生向けに山科地域の資源に関する講演を行った。
工学部	情報工学科	日本原子力研究開発機構 福島研究開発・評価委員会	伊藤京子	福島県	なし	福島県の復興に向けた研究開発の評価に関して、委員として参加し、研究開発の方向性に対して評価した。
工学部	情報工学科	水口東高校模擬授業	伊藤京子	滋賀県甲賀市	なし	「AI概論 ～AIは何がすごい？ どう役立つ？ どこがおもしろい？～」と題した模擬授業を水口東高校1年生、2年生約60名を対象に行った。
工学部	情報工学科	草津東高校摸擬授業	東野輝夫	滋賀県草津市	なし	2021/12/20に当該高校で『コンピューターとプログラミング』に関する５０分の授業を２回実施した。2年生63名の参加者があった。
工学部	建築デザイン学科	兵庫県たつの市重要伝統的建造物保存地区審議委員会	鈴木あるの	兵庫県たつの市	なし	特定物件選定の審議会に有識者として参加し意見を述べた。修理・修景基準の制定内容について追記修正提案をした。修理・修景の現場に立ち会い工事方法について助言をした。
工学部	建築デザイン学科	京都市住宅審議会	松本正富	京都市	なし	公営住宅と民間賃貸住宅におけるセーフティネットの在り方についての審議会に委員として参加し、答申の取りまとめに協力した。
工学部	建築デザイン学科	京都市指定管理者選定等委員会	松本正富	京都市	なし	京都市立浴場の指定管理者選定のための委員として活動を行った。
工学部	建築デザイン学科	京都市京セラ美術館「モダン建築の京都」の展示監修（堀川団地）	土井脩史	京都市	10名	京都市京セラ美術館で開催された「モダン建築の京都」において、堀川団地の展示監修を行った。映像の資料提供、模型製作等を学生とともに取り組んだ。
工学部	建築デザイン学科	増田友也の建築世界——アーカイブズにみる思索の軌跡	近藤康子	京都市	なし	京都大学総合博物館の企画展「増田友也の建築世界——アーカイブズにみる思索の軌跡」（2021.10.27-12.12）の企画・運営を行った。2022年には『増田友也建築作品集』の刊行も予定している。
工学部	建築デザイン学科	駅ナカアートプロジェクト	河野良平	京都市	約40名	京都市交通局主催のアートプロジェクトに2・3回生河野ゼミで参加。地下鉄・椥辻駅の壁面にアートワークを展示した。
工学部	建築デザイン学科	モダン建築の京都	河野良平	京都市	なし	京都市美術館主催の「モダン建築の京都」展にアドバイザーとして参加し、展示事例の解説などを担当した。
工学部	建築デザイン学科	豊中市住宅マスタープラン検討委員会マンション部会	鈴木克彦	豊中市	なし	豊中市のマンション管理適正化推進計画の策定やマンション政策に関わる審議を行った。
工学部	建築デザイン学科	城陽市開発事業紛争調停委員会及び東部丘陵地整備委員会	鈴木克彦	城陽市	なし	城陽市東部丘陵地の開発行為に関する審議を行った。
工学部	建築デザイン学科	京都府建築工事紛争審査会	鈴木克彦	京都府	なし	建築工事に関する当事者間の紛争を解決させるための調停審議を行った。
工学部	建築デザイン学科	京都府住宅審議会	鈴木克彦	京都府	なし	住生活基本計画に基づき京都府住宅マスタープランの策定のための審議を行った。
工学部	建築デザイン学科	京都府建築審査会	鈴木克彦	京都府	なし	副会長として、建築基準法に基づき建築許可が必要な建築物に対する可否や同意、不服申し立てなどの審査請求に対する議決等を行った。
工学部	建築デザイン学科	大阪府建築協定地区連絡協議会	鈴木克彦	大阪府	なし	大阪府下340地区の建築協定地区で構成される連絡協議会の特別顧問として建築協定の運営指導を行った。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
看護学部	看護学科	大規模接種会場での ワクチン接種支援	奥野信行 梶谷佳子 上澤悦子 河原宣子 征矢野あや子 堀妙子 松本賢哉 岡田純子 清水彩 竹下夏美 常田裕子 中橋苗代 野島敬祐 餅田敬司 伊藤弘子 川村晃右 小西奈美 竹中友希 十倉絵美 廣澤紀代 岩﨑真子 上野まき子 桐明佑樹 定森千賀 時岡辰汰郎 萬代彩子 平岡華奈江 渡邉有紀	神戸市	なし	ノエビアスタジアムにおける大規模接種会場でワクチン接種を実施した。
看護学部	看護学科	COVID-19特定外来支援	河原宣子 梶谷佳子 松本賢哉 奥野信之 小西奈美 征矢野あや子	京都市山科区	なし	洛和会音羽病院の特定外来にて、PCR検査の実施支援を行った。
看護学部	看護学科	京都市版ＩＨＥＡＴ活動	黒瀧安紀子 河原宣子 奥野信行 小西奈美 深尾沙紀 岩﨑真子 下田優子 餅田敬司 上野まき子 マルティネス真喜子	京都市	なし	COVID-19の拡大に伴い、京都市内にある大学の有志で京都市版ＩＨＥＡＴが結成され、積極的疫学調査への協力、自宅療養者への情報提供のための資料作成等を行った。
看護学部	看護学科	第17期小児在宅ケア コーディネーター研修会	奈良間美保 堀妙子 伊藤弘子 定森千賀	全国	4回生 2名	全国の小児の在宅ケアに関わる看護職を28名を対象とし、2021年8月21日・22日、10月30日、12月18日の全3回の研修会をオンラインで実施した。
看護学部	看護学科	令和3年度 訪問看護師情報交換会	黒瀧安紀子	京都市	なし	訪問看護ステーションの災害時の対応と災害への備えについての講義を行った。
看護学部	看護学科	京都市西京区洛西支所 保健師業務研修会	黒瀧安紀子	京都市西京区	なし	災害時の保健師活動として、アクションカードの作成の講義とワークショップ、ＢＣＰに基づいた受援計画の講義とワークショップを行った。また一連の活動の学会発表を参加保健師が行うことから、発表原稿作成等のアドバイス、支援を行った。
看護学部	看護学科	京都市右京区研修会	黒瀧安紀子	京都市右京区	なし	災害時の保健師活動として、初動活動や平常時の保健師としての備えに関して、講義を行った。
看護学部	看護学科	京都市山科区研修会	黒瀧安紀子	京都市山科区	なし	災害時における保健師活動について、避難所での保健師活動や災害への備え活動について、講義を行った。
看護学部	看護学科	京都市上京区保健師 研修会	黒瀧安紀子	京都市上京区	なし	受災時の保健師活動として、昨年の研修会を基に、発災時に活動できるようアクションカードの作成のワークショップを実施した。
看護学部	看護学科	京都市左京区保健師 研修会	黒瀧安紀子	京都市左京区	なし	災害時の保健師活動とアクションカードの作成の動画を見て、保健師活動が速やかに行えるように、アクションカードの作成と災害時への備えを行った。
看護学部	看護学科	京都府医師会ＪＭＡＴ 京都研修会	黒瀧安紀子	京都市	なし	災害発災時の4師団（医師、歯科医師、薬剤師、看護師）の活動と連携について、京都府看護協会災害委員メンバーとして、ディスカッションを行った。
看護学部	看護学科	京都府看護協会企画研修	黒瀧安紀子	京都府	なし	京都府看護協会災害委員として、コロナ禍における感染対応と分散避難および受援について学ぼうの受援に関する講師を行った。また、感染対応の避難所シミュレーションでファシリテーターも行った。

健康 科学部	心理学科	保育コンサルテーション	宮井研治 濱田智崇	山科区 草津市	なし	草津市立幼稚園・こども園4か園、山科区内こども園1園にて、統合保育に関するコンサルテーションを実施した。
健康 科学部	心理学科	キンダーカウンセラー 派遣事業研修	菅野信夫	大阪府 京都府	なし	大阪府・京都府の各私立幼稚園連盟が行っているキンダーカウンセラー派遣事業のスーパーヴァイザーとして、それぞれ年3回ずつ、派遣されるキンダーカウンセラー（臨床心理士）と派遣先の幼稚園園長を対象に子育て支援に関する研修会を開催。
健康 科学部	理学療法 学科	深草地区在住高齢者の 健康に向けた「たちばな 健康体操」の講演	安彦鉄平	伏見区	なし	たちばな健康体操は、数年前より地域の介護予防として広く実施している。今年度新たな公園にて実施することが決まり、開催に先駆けてボランティアリーダーを対象に、たちばな健康体操の紹介および介護予防に関する講演を行った。2021年度は、講演を合計4回開催した。なお、深草・醍醐地域介護予防推進センター主催で実施した。

学部	学科	活動名	担当	対象地域 または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康 科学部	理学療法 学科	深草地区在住高齢者へのオンライン介護予防教室	安彦鉄平	伏見区	3名	深草・醍醐地域介護予防推進センター主催のオンライン介護予防教室を開催した。対象は地域在住の高齢者5-6名および2つの高齢施設とし、学生との交流と介護予防体操をオンラインで実施した。3名の学生が参加し、それぞれ1分間スピーチと体操を行い、高齢者の方と交流し、教育としても良い機会になった。
健康 科学部	作業療法 学科	堺市教育委員会 自立活動アドバイザー 事業外部専門家	原田瞬	大阪府堺市	なし	大阪府堺市教育委員会の事業で、市内の特別支援学校、小中学校において、巡回相談という形態で、対象児童の教科学習、自立活動の支援を行った。
健康 科学部	作業療法 学科	大阪府高等学校支援教育力充実事業 「医療専門家チーム」	原田瞬	大阪府	なし	大阪府教育委員会の事業で、府内の高等学校において、障がいにによる困難に関する判断や望ましい教育的対応についての専門的な指導助言を行った。
健康 科学部	作業療法 学科	京都橘大学作業療法学科 つながるプロジェクト	原田瞬 小川敬之 川﨑一平 永井邦明	山科区 山科団地エリア	34名	山科きずな支援事業の助成を受け、山科区、地域自治会連合会と連携し、山科団地の活性化に向けた意見交換会、イベントを企画実践した。団地集会所にて、4回の健康イベントを実施した。学生は地域包括ケアシステム演習という科目の中で遠隔参加し、健康体操プログラムを実践した。
健康 科学部	作業療法 学科	京都市介護認定審査会	永井邦明	京都市	なし	京都市の附属機関として設置され、要介護者等の保健、医療、福祉に関する学識経験者によって構成される合議体（京都市介護認定審査会）の委員として要介護度の審査・判定に従事した。
健康 科学部	作業療法 学科	生活行為向上マネジメント書き方研修会	永井邦明	近畿MTDLP 連絡協議会	なし	京都府作業療法士会の会員を対象に「作業療法士の臨床思考過程を示すためのツール」である生活行為向上マネジメントの活用に関する講義と演習を行った。
健康 科学部	作業療法 学科	日本作業療法士協会 生涯教育制度検討プロジェクト　班長	高畑進一	日本作業療法士協会	なし	日本作業療法士協会生涯教育制度検討プロジェクト班長として、全国のOTを対象とする新たな卒後教育構想に基づく初年次研修制度の基礎となるアンケートを全国のOT部門管理者および卒後3年までのOTを対象に実施した。結果は3月に報告予定である。
健康 科学部	作業療法 学科	京都府作業療法士会主催 現職者選択研修会 講師	高畑進一	京都府作業療法士会	なし	京都府作業療法士会主催現職者選択研修会において、作業療法士　約40名に対し、「身体障害領域の基礎知識」について講演を行った。
健康 科学部	救急救命 学科	円町まぶね隣保園BLS	黒﨑久訓	京都市	なし	保育士を対象としたBLS講習を行った。
健康 科学部	救急救命 学科	安朱小学校BLS	黒﨑久訓	京都市	1回生 15名	児童を対象とし「命の授業」という題でBLS講習を行った。
健康 科学部	救急救命 学科	彦根東高校BLS	黒﨑久訓	彦根市	2回生 3名	教員を対象としたBLS講習を行った。
健康 科学部	救急救命 学科	大宅こども園BLS	黒﨑久訓	京都市	1回生 15名	園児、保育士を対象としたBLS講習を行った。
健康 科学部	救急救命 学科	朱一保育園BLS（予定）	黒﨑久訓	京都市	未定	保育士を対象としたBLS講習を行う予定。
健康 科学部	救急救命 学科	ワクチン職域接種	救急救命 学科	近畿	参加有	ワクチン職域接種時に待機エリアの救護を中心とした業務を行った。
健康 科学部	救急救命 学科	JPTECプロバイダーコース（予定）	関根和弘	滋賀県	参加有	外傷傷病者に対する現場アプローチを習得するコースに参加する予定。
健康 科学部	臨床検査 学科	たちばなサイエンスデー2021	所司睦文 内堀恵美 大澤幸希光	京都市	6名	京都市内在住の小学1～6年生とその保護者を対象とした大学の研究に触れてみようという企画。「耳を使わず音が聞けるのか」、「箱の中に何が入っている」、「科学者になってみよう」ほか、および、「顕微鏡をつかってミクロの世界をのぞいてみよう」などの体験コーナーを出展した。
健康 科学部	臨床検査 学科	市民向け公開講座 京のやくたちばなし -健康で豊かに暮らすコツ-「知っていますか？認知症と間違えやすい高齢者てんかん」	所司睦文	山科区および その近隣地域	168名	2021年7月10日（土）10時～12時、京都薬科大学 躬行館3F T31講義室で京都橘大学と京都薬科大学教員の教員が講師となり開催された、地域連携型教育プログラムOpen lecture 市民向共同公開講座　京のやくたちばなし　第1回認知症にまつわるやくたちばなしで、「知っていますか？認知症と間違えやすい高齢者てんかん」を講演した。参加申込者は会場（対面）が86名、Webが82名、合計168名だった。

Ⅲ
自治体等との連携協力に関する協定の締結

協定等

自治体等との連携協力に関する協定の締結

2012 年度～2021 年度

協定（連携）先	締結日	締結事項	備　考
学校法人　昭和大学	2012年 1月 16 日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 看護職および看護・医療のレベルアップへの取組、人事交流、看護に関する共同研究と地域連携などを推進。	 昭和大学との包括協定調印式
日本赤十字社 京都第二赤十字病院	2013年 1月 21 日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 ○本学看護学部の主要実習病院としての連携強化 ○「京都第二赤十字病院特別奨学金制度」の創設（1 学生約 360 万円） ○奨学金制度の創設に伴う新規推薦入試制度の導入 ○看護に関する共同研究および地域連携の推進、教職員の交流	 第二赤十字病院との包括協定調印式
京都市山科区	2013 年 9 月 24 日	本学と山科区は、地域連携・協力に関する協定を締結。 ○まちづくりの推進 ○地域産業の振興 ○教育、文化、生涯学習、スポーツの振興 ○医療・健康・福祉の向上 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○防犯、防災、交通安全等の地域の安心・安全の推進	 山科区との協定締結式
社会福祉法人 京都博愛会 （京都博愛会病院）	2014 年 3月 5 日	理学療法士養成および理学療法・医療をめぐる教育研究に関する事業の発展を目指し包括協定を締結。 ○本学健康科学部理学療法学科における教育・研究に関する事項 ○京都博愛会病院理学療法士および理学療法・医療のレベルアップのための支援に関する事項 ○理学療法に関する共同研究および地域連携に関する事項 ○教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項	
社会福祉法人 大宅福祉会 （おおやけこども園）	2014 年 6 月 1 日	対人援助に携わる専門職者の養成ならびに看護・医療、保育・教育、臨床心理・発達心理をめぐる教育研究の振興のため包括協定を締結。 ○本学人間発達学部児童教育学科における教育・研究に関する事項 ○本学看護学部看護学科における教育・研究に関する事項 ○本学健康科学部心理学科および心理臨床センターにおける教育・研究に関する事項 ○大宅保育園の保育職および保育のレベルアップのための支援に関する事項 ○地域の子育て支援に関する事項 ○教育と研究の発展のため、その他必要と認められる事項	
滋賀県野洲市	2014 年 6 月 17 日	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な人材育成に寄与することを目的に協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他両者が必要と認める事項	
京都市 醍醐中山団地町内連合会	2014 年 10 月 30 日	京都市、醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的とした連携協定を締結。 ○地域連携センター分室の開設 ○留学生が暮らす国際シェアルームの運営 ○住民との交流による地域貢献活動 ○地域コミュニティの再生と活性化 ○健康および福祉活動	 醍醐中山団地との協定締結式

協定（連携）先	締結日	締結事項	備　考
滋賀県草津市	2014 年 12 月 25 日	本学と滋賀県草津市は、子育て支援の充実を軸とした包括協定を締結。 ○幼児教育・児童教育に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○地域の活性化に関する事業 ○人材育成に関する事業	 草津市との協力に関する協定を締結
大津市老人クラブ連合会	2015 年 6 月 10 日	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業の実現および看護・医療をめぐる教育・研究の振興をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な看護職者育成に寄与することを目的として協力協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる看護職者の育成に関する事項（看護学実習の受け入れなど） ○その他両者が必要と認める事項	
公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団 （京都市東部文化会館）	2015 年 11 月 5 日	本学と京都市東部文化会館（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）は、連携に関する協定を、同振興財団長尾理事長、同大学細川学長出席のもと締結。 ○文化芸術活性化パートナーシップ事業 ○文化・芸術の振興に寄与する人材の育成 ○学生の参加・学習	 京都市音楽芸術文化振興財団との 連携に関する協定を締結
和歌山県 和歌山県那智勝浦町	2016 年 6 月 3 日	本学と和歌山県那智勝浦町は、和歌山県が進める「大学のふるさと」の趣旨に賛同し、三者協定を締結。 ○地域資源再評価および観光広報、教育研究提携 ○人的資源の交流を通じた人材育成 ○地域貢献活動の推進による地域文化の向上および振興	 那智勝浦町と 「大学のふるさと」協定を締結
京都市 京都市児童館学童連盟	2017年 7 月 28 日	本学と京都市児童館学童連盟および京都市は、児童館における学習支援事業に係る協定を締結。 京都市内の児童館において、学生ボランティアが子どもたちの勉強サポートや相談対応などの学習支援事業を展開する。	 児童館における 学習支援事業に係る協定を締結
京都府山科警察署	2017年 9 月 11 日	本学と京都府山科警察署は、国際分野を中心とした協力に関する協定を締結。 本学から山科警察署への英語教育プログラムの提供や、山科警察署から本学留学生への柔道・剣道等日本文化体験機会の提供などを行う。	 京都府山科警察署との 協力に関する協定を締結
京都市 全国認定こども園協会京都府支部	2017年 8 月 4 日	本学と全国認定こども園協会および京都市は、幼稚園教諭免許状更新の連携・協力に関する協定を締結。 これにより 2017 年度からの 3 年間、京都府内の認定こども園、京都市内の市立・私立幼稚園および市営・民間保育園の職員を対象とした幼稚園教諭免許状の更新講習を本学で実施する。	 京都の幼児教育・ 保育施設と幼稚園教諭免許状更新の 連携・協力協定を締結
株式会社ビバ	2018年 3 月	本学と株式会社ビバは、教育連携および地域活性化事業の展開に関する協定を締結。株式会社ビバが指定管理者として運営を委託されたスポーツ施設等において、学生の教育や共同研究等産学連携活動を行う。	 株式会社ビバとの 連携に関する協定を締結

協定（連携）先	締結日	締結事項	備　考
福井県小浜市	2018年 3月	本学と福井県小浜市は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。 ○地域振興を担う人材育成に関すること ○地域社会の活性化およびまちづくりに関すること ○教育および学習機会の提供に関すること ○産業振興に関すること ○情報収集および発信に関すること ○その他、目的を達成するために必要な事項に関すること	 小浜市との包括協定を締結
京都市 京都市児童館学童連盟 京都造形芸術大学	2019年 1月	本学と京都市、京都市児童館学童連盟、京都造形芸術大学は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。 ○児童館等において実施する職業体験事業への大学生の派遣 ○学生ならではの発想や行動力を活かした児童の健全育成活動全体の活性化 ○大学生等の知識・技術の向上、人材育成　等	 京都市児童館等との職業体験に関する４者協定を締結
京都薬科大学	2019年 3月18日	本学と京都薬科大学は医学専門職の養成および医学分野における教育研究の発展をめざし、包括協定を締結。 その協定に基づき、合同多職種連携教育（「IPE」）を実施する。 ○医療専門職の養成および医療分野における教育の発展に関する事項 ○学生および教職員の交流に関する事項 ○京都市山科区を中心とした地域連携に関する事項 ○医療分野における共同研究に関する事項 ○学内施設：設備の共同利用に関する事項 ○その他必要と認められる事項	
守山市	2019年 7月	本学と守山市は、包括協定を締結。以下の事項について連携し協力する。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他必要と認められる事項	 守山市との包括協定を締結
イオンタウン株式会社	2019年 11月	本学とイオンタウン株式会社は、同社が開業するイオンタウン山科椥辻において、それぞれが有する資源を有効活用し、地域の活性化、教育研究、生涯学習、文化および産業の振興、人材育成等において相互に連携・協力し、相互の発展および地域社会の発展に寄与することを目的に、主に次に掲げる事業の企画の企画、実施等について連携し、協力する。 ○地域の活性化に関する事業 ○教育研究に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○人材育成に関する事業 ○その他必要と認められる事業	
大阪大学 データビリティフロンティア機構	2020年 5月1日	本学と大阪大学データビリティフロンティア機構に設置するライフデザイン・イノベーション拠点本部は、健康・教育・都市生活などのライフデザイン分野に関連するイノベーションの創出を目指して、連携協定を締結。 ○健康・教育・都市生活などのライフデザイン分野の共同研究に関する事項 ○研究に必要な施設・設備・備品の共同利用に関する事項 ○学生及び教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項	
日本電気株式会社 (NEC)	2020年 11月2日	本学と日本電気株式会社は、産学連携によりAI・ITなど先端技術に関する教育・研究施設の整備および教育活動、次世代の学習環境の構築に係る研究活動について連携・協力するために協定を締結。 ○AI・ITなど先端技術の教育・研究に必要な施設・設備等の整備に関する事項 ○AI・ITなど先端技術人材教育に関する事項 ○次世代の学習環境構築に関する事項 ○その他必要と認められる事項"	 日本電気株式会社との連携・協力に関する協定を締結
京都市	2021年 2月5日	本学と京都市は、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上に向け、ふるさと納税を活用した大学・地域の連携強化に関する協定を締結。 ○ふるさと納税の活用促進に関すること ○大学・学生との地域の連携強化等に関すること ○その他双方が必要と認めること	

2021 京都橘大学
「地域連携型教育プログラム」実績集
（2021 年 4 月～ 2022 年 3 月）

発行日　2022 年 3 月 31 日
発　行　京都橘大学　地域連携センター
〒 607-8175　京都市山科区大宅山田町 34
TEL：075-574-4186　FAX：075-574-4149
URL：https://www.tachibana-u.ac.jp/
E-mail：aca-ext@tachibana-u.ac.jp